



2024年度

B&G財団 活動実績報告書

地域活性化と地方創生

B&G財団は次のステージへ進みます

2023年、B&G財団は設立50周年を迎え、ネクストステージとして「地域活性化と地方創生」を掲げた中長期計画「After2023」を策定。新たに5つのミッションを柱に、新時代に対応すべく、自治体と共に社会課題の解決に向けて事業を推進していきます。

After2023ビジョン

地域とともに、地域の発展のために。

5つの柱で“新たな時代”へ対応



2023～

4th STEP : 地域活性化と地方創生

～海洋センターから地域・自治体へ～

2015～

3rd STEP : コミュニティの活性化～スポーツに止まらない多機能拠点へ～

2003～

2nd STEP : 健康・人づくり～ハードからソフトへ～

1973～

1st STEP : 施設づくり～活動拠点の整備～

青少年の健全育成

B&G財団は、地方自治体をパートナーとして、
これからも地域の発展に関わる新たな事業を展開していきます。

事業編

1. 社会的課題の解決と地域の健全な発展に資する事業の推進	3
(1) 「子ども第三の居場所」開設と運営支援（日本財団助成事業他）	3
(2) 「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業（日本財団助成事業）	12
(3) 地域の社会課題解決に向けた新たな拠点整備事業	18
2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備事業	19
(1) 修繕助成金の交付（日本財団助成事業）	19
(2) 新規海洋クラブ・サポーター登録（日本財団助成事業）	20
(3) 活動器材の配備（日本財団助成事業）	23
3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進	24
(1) 学習と体験活動による子育て支援「BG塾」（日本財団助成事業）	24
(2) 次世代型海洋センター艇庫を活用した地方の魅力創生（日本財団助成事業）	26
(3) 熱中症対策事業（日本財団助成事業）	28
(4) 地域と連携した障がい者スポーツ基盤整備事業の実施（体験格差解消寄付金事業）	29
(5) 海洋センターの評価と表彰	31
(6) 海洋クラブの評価と表彰	34
(7) その他の支援事業	35
4. 誰もが海に親しめる事業の推進	36
(1) 学校・地域への「海の安全」教育を推進する事業の全国開催 （海と日本PROJECT 日本財団助成事業）	36
(2) 海の日に関するイベントの開催 海岸イベント「砂ASOBeach」の開催（海と日本PROJECT 日本財団助成事業）	38
(3) 海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動の実施 （海と日本PROJECT 日本財団助成事業）	39
(4) 海洋ごみ専用ごみ箱「B&G拾い箱」の設置 （海と日本PROJECT 日本財団助成事業）	40
(5) 体験格差解消事業の実施	42
5. 指導者の養成と活用	44
(1) 海洋教育と地域の発展を担う人材の養成	44
(2) B&G全国指導者会の活動促進（日本財団助成事業）	46

6. B&G全国会議の開催	52
(1) B&G全国会議等による連携強化（日本財団助成事業）	52
(2) 「海洋センターブロック連絡協議会」の活性化に向けた会議の開催（日本財団助成事業）	55
(3) 自治体職員のB&G財団への派遣研修	57
7. 調査研究等の活動	58
(1) 事業成果の検証	58
(2) 時代に即した新たな事業の創出に関する調査	58
(3) 先進的海洋センターの整備に関する調査（日本財団助成事業）	58
(4) 海洋センターサテライト拠点整備事業（日本財団助成事業）	59
8. 広報活動	60
(1) 広報コンテスト「アナビバグランプリ2024」の開催	60
(2) その他広報活動・情報発信	61
(3) 子ども健全育成大使による活動	61
9. 能登半島地震復興支援活動「B&GフレンドシップPROJECT 2024」	62

資料編

海洋センターの運営・活動状況	64
(1) 2024年度 海洋センターの活動状況	64
(2) 海洋センター評価	64
海洋クラブの運営・活動状況	66
(1) 2024年度 海洋クラブの活動状況	66
(2) 海洋クラブ評価	66
その他資料	68
B&G財団役員等一覧 2025年3月31日現在	68
2024年度 修繕一覧	69
2024年度 活動器材配備申請一覧（A・B区分）	71
2024年度 活動器材配備申請一覧（C区分）	72
2024年度 活動器材配備申請一覧（D区分）	72

1 社会的課題の解決と地域の健全な発展に資する事業の推進

地域の人口減少によるコミュニティの希薄化、子どもの貧困問題、全国的に頻発する自然災害への対応など、現代社会が抱える様々な課題の解決に向けた多様な事業を全国各地で実施した。

(1) 「子ども第三の居場所」開設と運営支援（日本財団助成事業他）

さまざまな困難と向き合う子どもたちの居場所づくりとして「子ども第三の居場所」を展開。拠点開設に係る建設費の支援をはじめ、行政・地域住民等の連携体制の構築や学習・生活支援プログラム、体験活動の実施など幅広い支援を行った。

事業開始年度 2019年度（6年目）

目的 家庭の抱える困難が複雑・深刻化し、地域の繋がりも希薄になる中で、安心して過ごせる居場所がなく、孤立してしまう子どもは少なくない。そのような中、子どもが安心・安全に過ごすことができる「子ども第三の居場所」を全国各地に設置し、学習支援・生活支援ほか、海洋センターのノウハウを活かした体験活動などを提供することにより、子どもの将来の自立に必要な力を育む。

目標 各拠点の行政・団体・地域住民等による連携体制の構築や支援対象者へのアウトリーチなど、拠点開設に係る支援を行うとともに、学習・生活支援プログラム、体験活動の実施など開設後の運営に係る支援を行う。

実績

開所拠点数

開所年度	拠点数
2019年度	9
2020年度	6
2021年度	1
2022年度	3
2023年度	19
2024年度	17
計	55



外観がかわいい下條拠点



土間が特徴的な阿久根拠点



協定書調印式でのテープカット



決定書授与式



車両配備式

① 「子ども第三の居場所」 開設費支援

子ども第三の居場所を開設する17拠点に対し、開設費助成を決定し、決定書授与式を行った。

No.	期	拠点所在地	決定書授与式実施日	開設費助成決定額
1	5	岩手県一関市	2024年7月22日	50,000,000円
2		埼玉県滑川町	2024年4月17日	50,000,000円
3		山梨県中央市 (B)	2024年4月26日	50,000,000円
4		兵庫県明石市	2024年8月7日	49,940,000円
5		兵庫県南あわじ市 (B)	前年度実施済	50,000,000円
6		岡山県美咲町	2024年10月17日	50,000,000円
7		愛媛県愛南町	2024年7月12日	50,000,000円
8		佐賀県伊万里市	2024年9月17日	50,000,000円
9		熊本県長洲町	2024年10月30日	50,000,000円
10		鹿児島県阿久根市	2024年6月20日	50,000,000円
11		鹿児島県徳之島町	2024年6月14日	50,000,000円
12		鹿児島県南大隅町 (B)	前年度実施済	46,500,000円
13	6	岩手県洋野町	2024年11月14日	50,000,000円
14		新潟県燕市大関	2025年2月18日	39,154,000円
15		福岡県篠栗町 (B)	2024年5月27日	50,000,000円
16		熊本県高森町	2024年8月20日	50,000,000円
17		沖縄県竹富町	2024年12月5日	50,000,000円
合計				835,594,000円

※ (B) 運営開始後工事を行うBパターン

② 「子ども第三の居場所」 運営費支援

子ども第三の居場所の既存の23拠点および、2024年度新たに運営を開始した17拠点に対して運営費助成を決定し、運営費助成開始にあたり、協定書調印式および関係者・地元住民等を対象に内覧会を行った。

【既存拠点への支援】

No.	拠点自治体	運営助成金額	No.	拠点自治体	運営助成金額
1	兵庫県明石市	4,000,000円	13	沖縄県中城村	14,400,000円
2	岡山県美作市 (作東)	9,600,000円	14	鹿児島県長島町	9,600,000円
3	岡山県美作市 (大原)	9,600,000円	15	滋賀県高島市	9,600,000円
4	広島県尾道市	9,600,000円	16	北海道古平町	9,600,000円
5	福島県塙町	9,600,000円	17	千葉県横芝光町	9,600,000円
6	佐賀県みやき町	14,400,000円	18	長野県山形村	9,600,000円
7	栃木県芳賀町	14,400,000円	19	兵庫県南あわじ市	14,400,000円
8	鹿児島県南さつま市	14,400,000円	20	北海道東川町 (東川小)	9,600,000円
9	長野県上松町	9,600,000円	21	北海道東川町 (共生)	9,600,000円
10	兵庫県養父市	9,600,000円	22	鹿児島県南大隅町	14,400,000円
11	北海道北広島市	9,600,000円	23	山梨県中央市	9,600,000円
12	神奈川県湯河原町	9,600,000円			
計					244,000,000円

【新規拠点への支援】

No.	期	拠点自治体	開設年月	調印式実施日	運営助成金額
1	5	岡山県鏡野町	2024年4月	2024年4月17日	12,000,000円
2		長野県下條村	2024年4月	2024年5月31日	9,600,000円
3		埼玉県吉見町	2024年4月	2024年4月23日	9,600,000円
4		徳島県阿南市	2024年4月	2024年4月15日	9,600,000円
5		長野県東御市	2024年4月	2024年4月8日	14,400,000円
6		長野県白馬村	2024年11月	2024年12月5日	6,000,000円
7		群馬県明和町	2024年4月	2024年4月3日	14,400,000円
8		佐賀県伊万里市	2025年2月	2025年2月26日	2,400,000円
9		茨城県筑西市	2024年4月	2024年4月2日	14,400,000円
10		岡山県新庄村	2024年4月	2024年4月18日	9,600,000円
11		岩手県久慈市	2024年4月	2024年5月8日	14,400,000円
12		兵庫県明石市（西部）	2025年1月	2025年1月20日	2,400,000円
13		鹿児島県阿久根市	2025年2月	2025年1月29日	3,200,000円
14		岩手県一関市	2025年2月	2025年3月14日	2,400,000円
15		奈良県宇陀市	2024年6月	2024年5月30日	14,400,000円
16		三重県伊賀市	2024年9月	2024年8月23日	5,600,000円
17	6	福岡県篠栗町	2024年4月	2024年5月27日	14,400,000円
計					158,800,000円

③ 「子ども第三の居場所」車両支援

拠点利用児童の送迎用車両の支援として、3拠点への支援を決定した。

No.	拠点設置自治体名	決定額	支払額
1	茨城県筑西市	3,200,000円	3,188,680円
2	千葉県横芝光町	3,200,000円	3,200,000円
3	長野県東御市	3,200,000円	3,200,000円
合計		9,600,000円	9,588,680円

④ 研修会の開催

各拠点の円滑な運営に繋げることを目的に、以下の研修会を開催した。

(ア) 自立化会議

目的 運営費助成の期間終了に伴う自立化運営に向けて、補助金の活用計画や運営方法の見直しを予め行う必要がある。そこで、子ども家庭庁による拠点で活用できる交付金事業の説明や、他拠点の先行事例等を共有し、助成終了後の円滑な運営に繋げることを目的とする。

実施日 2024年7月26日(金)

場所 オンライン開催

対象 (必須) 2024年度に運営2・3年目の自治体担当者、拠点マネージャー等
(任意) 運営1年目未満拠点、自立拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等

参加者 (必須) 17自治体19拠点
(任意) 14自治体14拠点

内容 こども家庭庁の補助金説明、自立拠点による先行事例発表、各自治体資金計画等報告等

(イ) フォローアップ研修会

目的 他拠点とのネットワークの構築および情報収集・共有する場とし、各拠点の事例発表や分科会を通じて、拠点での取り組みや課題について共有し、自拠点の課題解決と運営改善につなげる。また、専門家による講演やワークショップの実施を通じて、各拠点担当者の専門知識の向上とスキルアップを図る。

実施日 2024年11月7日(木)～8日(金)

場所 東京海洋大学 品川キャンパス

対象 (必須) 本研修会実施時に運営を開始している運営費助成期間中拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等
(任意) 開設準備中拠点、自立拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等はオンラインにて自由参加可能

参加者 (必須) 33自治体35拠点

(任意) 8自治体8拠点

内容 外部講師講演、ケーススタディ、拠点事例発表、分科会 等



フォローアップ研修会の様子

(左1：基調講演 / 左2：ケーススタディ / 右2：事例発表 / 右1：分科会)

(ウ) 拠点マネージャー現場研修

目的 スタッフマネジメントやイベントの企画方法、保護者との面談業務など、拠点運営に取り組むマネージャーとして必要なスキルを学び、拠点運営の質を高める。

実施日 2024年6月～2025年2月

内容 2泊3日の現場OJT研修（子ども支援、スタッフミーティング、ケース会議への参加 等）

場所・対象 12拠点

No.	参加拠点	実施時期	受入拠点
1	北海道古平拠点	2024年6月24日～26日	茨城県笠間拠点
2	群馬県明和拠点		
3	長野県下條拠点		
4	岡山県鏡野拠点	2024年6月26日～28日	栃木県芳賀拠点
5	奈良県宇陀拠点		
6	福岡県篠栗拠点		
7	長野県白馬拠点	2025年1月27日～29日	長野県大町拠点
8	三重県伊賀拠点		
9	岩手県一関拠点	2025年2月19日～21日	群馬県明和拠点
10	兵庫県明石拠点		
11	佐賀県伊万里拠点		
12	鹿児島県阿久根拠点		

⑤子ども第三の居場所サミット

「子ども第三の居場所」事業に取り組む自治体の首長が一堂に会し、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに関する事例共有や、地域の子育てコミュニティの活性化に向けた情報交換を行い、事業に対する更なる理解促進を図った。

時期 2024年11月8日(金)

場所 東京海洋大学 品川キャンパス

対象 子ども第三の居場所事業実施自治体のうち、一次審査が通過した自治体の首長他
※B&G子ども第三の居場所所在自治体以外も対象に実施

内容

- ・パネルディスカッション ～つなぐ～
京都府南丹市 市長 西村 良平 氏
長野県白馬村 村長 丸山 俊郎 氏
長野県下條村 村長 金田 憲治 氏
大正大学 地域創生学部 公共政策学科 准教授 大沼 みずほ 氏
こども家庭庁 成育局 成育環境課長 安里 賀奈子 氏
第3の家族 理事長 奥村 春香 氏
- ・パネルディスカッション ～みがく～
神奈川県 湯河原拠点 MG 播磨 篤 氏
茨城県 筑西拠点 MG 田中 邦東 氏
岡山県 鏡野拠点 MG 駒牧 秀一 氏
- ・第2回子ども第三の居場所 共同宣言

◆子ども第三の居場所サミット出席者内訳

区分	役職等	出席者人数
自治体関係	首長	37人
	副首長	14人
	教育長	12人
	代理	6人
	随員	43人
来賓等	財団理事・評議員等	8人
合計		120人

※オンライン参加125自治体(団体)



パネルディスカッションの様子



会議の様子



会場内に掲示した子どもたちの作品

⑥ 「子ども第三の居場所」 利用児童を対象とした各種プログラムの提供

拠点を利用する児童を対象に、豊かな体験・交流機会を提供し、子どもたちの「生き抜く力」を育むため、様々な体験活動を各地で実施した。

(ア) 夏の冒険キッズ！～水辺の他拠点交流アドベンチャー～（日本財団支援金事業）

拠点を利用する児童の体験・交流機会を充実させるため、近隣拠点の児童とマリンスポーツ体験等を通じて交流するイベントを実施した。

対象 北海道、岡山県、関東圏の「子ども第三の居場所」に通う児童・生徒

人数 参加者133人（子ども99人、引率者34人）

日程・場所（北海道）2024年8月7日（水）北海道砂川市B&G海洋センター
 （岡山県）2024年9月14日（土）岡山県美作市作東B&G海洋センター
 （関東圏）2024年8月7日（水）茨城県行方市玉造B&G海洋センター

内容 マリンスポーツ体験、水辺レクリエーション、宝探しプログラム

「海上プログラム（カヌー・SUP）」と「陸上アクティビティ（水辺レクリエーション）」の2つの体験活動を通じて、子どもたちは自然の中で互いに協力し合い、絆を深めた。

参加者

北海道				岡山県				関東圏			
拠点名	子供	引率	全体	拠点名	子供	引率	全体	拠点名	子供	引率	全体
北海道古平町	17人	4人	21人	岡山県奈義町	7人	2人	9人	茨城県笠間市	5人	3人	8人
北海道北広島市	6人	5人	11人	岡山県新庄村	8人	2人	10人	茨城県筑西市	9人	3人	12人
北海道東神楽町	8人	2人	10人	岡山県鏡野町	11人	2人	13人	群馬県明和町	11人	4人	15人
北海道東川町	5人	2人	7人					埼玉県嵐山町	7人	2人	9人
								埼玉県吉見町	5人	3人	8人
計	36人	13人	49人	計	26人	6人	32人		37人	15人	52人



SUP



レクリエーション（水鉄砲）



みんなで記念撮影

(イ) 能登半島地震被災地支援事業 すまいるスタジオ@穴水 (日本財団支援金事業)

能登半島地震の被災地にある穴水拠点（石川県）に通う子どもたちが、穴水町の魅力を発信し、他拠点の子どもたちと交流するオンラインイベントを実施した。

日 時 2025年2月26日(水)

実施場所 子ども第三の居場所 石川県穴水拠点

参加拠点 18拠点

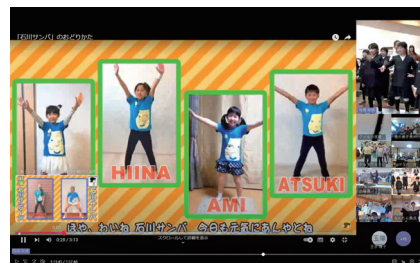
実施内容 穴水町にちなんだクイズ、間違い探し、石川サンバなど



穴水クイズ



間違い探し



全員でサンバを楽しく踊った

(ウ) 海洋性レクリエーション体験会の実施 (体験格差解消寄付金事業)

拠点を利用する児童の体験・交流機会を充実させるため、近隣の海洋センターにおけるマリンスポーツ体験を8回実施し、10拠点が参加した。

No.	拠点	受入センター	実施日	子ども	スタッフ	寄付金からの支援金額
1	栃木県芳賀町	行方市玉造	9月14日	5人	2人	8,010円
2	長野県大町市	大町市	10月14日	2人	1人	21,377円
	長野県下條村			2人	2人	-
3	滋賀県高島市	高島市今津	9月8日	7人	10人	21,881円
4	兵庫県明石市	南あわじ市南淡	9月13日	14人	5人	91,171円
	兵庫県南あわじ市			8人	3人	33,401円
5	奈良県宇陀市	堺市美原	9月28日	10人	5人	113,671円
6	広島県尾道市	尾道市向島	9月7日	9人	3人	2,281円
7	大分県杵築市	中津市耶馬溪	9月29日	10人	9人	106,257円
8	沖縄県中城村	名護市	8月20日	16人	4人	15,680円
計				83人	44人	413,729円



杵築拠点 @中津市



明石・南あわじ拠点 @南あわじ



中城拠点 @名護市

(エ) オンラインイベントの開催（日本財団助成事業）

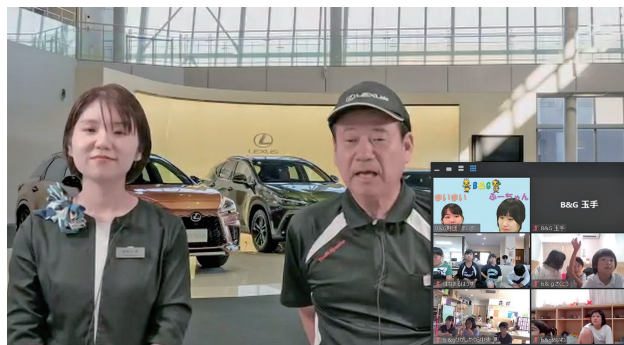
他拠点との交流を図る各種オンラインイベントを実施し、拠点を利用する児童やスタッフ同士の交流を促進した。

- 目的** オンラインイベントを通じて他拠点の児童と交流を図る
時期 2024年6月～2025年2月（計4回開催）
対象 B&G財団支援拠点、日本財団支援拠点
参加 計80拠点
内容 クイズ大会、オンライン工場見学、工作教室、クリスマスイベント 等

No.	実施日	内容	参加拠点数
1	6月12日	【アイスブレイク】 クイズ大会、レクリエーション	18拠点
2	9月4日	【オンライン工場見学】 トヨタ自動車 九州宮田工場のオンライン工場見学	23拠点
3	12月17日	【クリスマスイベント】 クリスマス工作、レクリエーション	21拠点
4	2月26日	【被災地支援 in 穴水】 穴水クイズ、石川サンバ	18拠点



クリスマスイベントではサンタが登場



オンラインで自動車工場を見学

(オ) 地元の魅力再発見！アントレ教育プログラム（子どもゆめ基金助成事業）

将来や仕事について考えるきっかけを提供するとともに、地元への愛着心や自分で考え工夫する力を育むことを目的に、下記3カ所でアントレプレナーシッププログラムを実施した。

a. 岡山県奈義町

場 所：b&gなご、奈義町文化センター 2 階

協 力：奈義町、地元はちみつ生産者、奈義町エコファーマー連絡協議会

日程	内容	参加者
2025年2月5日	奈義町とふるさと納税について 地元の名産品（はちみつ）について 返礼品を盛り上げるワークショップ	16人
2025年2月18日	ワークショップ	10人
2025年2月22日	成果発表	12人

b. 群馬県明和町

場 所：明和拠点、明和町保健センター

協 力：明和町、農事組合法人梨人、群馬県金融広報委員会

日程	内容	参加者
2025年3月8日	明和町と名産品（梨）について 梨を使った新商品を考えよう	10人
2025年3月9日	お金について学ぼう 商品販売体験	10人

c. 大分県杵築市

場 所：b & g きつき

協 力：杵築市、奈多江地区住民自治協議会、いちご・みかん農家、豊和銀行

日程	内容	参加者
2025年3月15日	杵築市と杵築市の産業について いちご農家さん、みかん農家さんの話 いちご・みかんを使った新商品を考えよう	19人
2025年3月16日	お金について学ぼう 商品販売体験	17人

子どもたちの声

- ・杵築は温暖で、海風が吹くので、おいしいみかんが育つことを知った。
- ・体験販売など、新しいことに挑戦できて楽しかった。
- ・大勢の人の前で発表するのはとても緊張したけど、奈義町の魅力を伝えることが出来て良かった。

拠点マネージャーの声

- ・普段とは違う表情がたくさん見られた。地域の人々の努力に子どもたちのアイデアが加わることで、地元を盛り上げる素敵な商品に仕上がった。



@奈義 はちみつ農家さんの話



@明和 商品販売体験



@杵築 みかんの違いを観察

【防災拠点の設置と災害時相互支援体制構築】事業内容

防災拠点の整備

防災拠点設置自治体へ、必須機材として重機をはじめとする災害発生時の緊急対応資機材の配備と防災倉庫の整備するとともに自治体や避難所の実態に応じた任意機材の配備に対し支援を行った。

人材育成研修の実施

防災拠点を整備した自治体担当者や消防署員等を対象に広域研修や重機研修を中心とする拠点研修、救助艇の水災害時の活用方法を学ぶ広域モデル研修、避難所運営を主とする研修等を実施した。

災害時相互支援体制の構築

災害発生時に、防災拠点に配備した機材や研修受講者による迅速な支援を行うため、周辺自治体を含めた災害時相互応援協定の締結など災害時相互支援体制を構築した。

※本事業は、各拠点の地理的条件や過去の災害状況と、有事の際の人材・機材派遣や、支援・連携体制等を基に拠点設置地域を設定しているため、拠点設置の公募は行っていない。

【防災拠点の整備】

第一期／25ヵ所

No.	道府県	自治体名
1	北海道	滝川市
2		積丹町
3	青森県	鶴田町
4	岩手県	久慈市
5	宮城県	大崎市
6		亘理町
7	千葉県	鋸南町
8	茨城県	五霞町
9	福井県	大野市
10	長野県	上松町
11	静岡県	牧之原市
12	三重県	志摩市
13	兵庫県	南あわじ市
14	広島県	北広島町
15	岡山県	奈義町
16		矢掛町
17	鳥取県	北栄町
18		伯耆町
19	愛媛県	愛南町
20	徳島県	海陽町
21	高知県	四万十町
22	福岡県	築上町
23	熊本県	湯前町
24		長洲町
25	鹿児島県	天城町

第二期／29ヵ所

No.	道府県	自治体名
1	北海道	石狩市
2		名寄市
3		鷹栖町
4	秋田県	男鹿市
5	山形県	酒田市
6	宮城県	石巻市
7	福島県	塙町
8	群馬県	明和町
9		みなかみ町
10	千葉県	いすみ市
11	新潟県	佐渡市
12	石川県	白山市
13	長野県	大町市
14	岐阜県	可児市
15	愛知県	新城市
16	滋賀県	野洲市
17	京都府	南丹市
18	島根県	雲南市
19	徳島県	徳島市
20	長崎県	南島原市
21	大分県	別府市
22	熊本県	南阿蘇村
23	宮崎県	宮崎市
24		日向市
25	鹿児島県	いちき串木野市
26		奄美市
27		南大隅町
28		与論町
29	沖縄県	名護市

第三期／15ヵ所

No.	道府県	自治体名
1	北海道	長万部町
2		大樹町
3	福島県	柳津町
4	埼玉県	嵐山町
5	新潟県	燕市
6	山梨県	中央市
7	三重県	亀山市
8		熊野市
9	滋賀県	高島市
10	兵庫県	養父市
11	岡山県	鏡野町
12	香川県	三木町
13	大分県	中津市
14	鹿児島県	長島町
15		南さつま市



油圧ショベル



スライドダンプ



救助艇

① 決定書授与式の実施

2024年度に第三期防災拠点の整備が決定した15自治体において、事業周知を目的とした「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業の決定書授与式を開催した。

また、今後は機材が配備された自治体において、災害時相互支援に係る協定書調印式および配備資機材のお披露目式を実施していく。主な協定内容は以下の通り。

- ・自治体間相互支援体制構築及び連携の促進
- ・災害発生時の物的及び人的支援等の実施
- ・本事業において配備された機材を活用した定期的な研修の実施と継続
- ・本事業において配備された防災倉庫及び機材等の管理・保全



決定書授与式の実施

② 人材育成研修の実施

研修参加者の防災に関する知識・技術の向上を図ることを目的に、広域研修Aおよび広域研修Cを含めた年間6回以上の研修計画に基づく、地域実情に沿った研修を実施した。

(ア) 広域研修A・女性モデル研修

実施日 2024年12月3日(火)・4日(水)

参加者 計137人

場所 ベルサール飯田橋

内 容

- 1 日目（広域研修A）：能登半島地震でも問題視された「災害時要配慮者」に対する災害対応について学ぶ研修を実施した。
- 2 日目（女子モデル研修）：自治体の防災担当者は9割が男性であることから、女性視点の災害対応が欠けている現状を理解し、防災事業への女性参画を促す研修を実施した。



災害時要配慮者への対応に向けて意見を述べる参加者



女性と男性の災害対策の違いを認識

(イ) 広域研修C

No.	ブロック	場所	日程
1	北海道ブロック	北海道石狩市	2024年9月2日(月)
2	東北ブロック	宮城県石巻市	2024年8月5日(月)
3	関東ブロック	群馬県明和町	2024年10月23日(水)～24日(木)
4	関西ブロック	鳥取県北栄町	2024年8月5日(月)
5	九州ブロック	熊本県湯前町	2024年10月23日(水)～24日(木)

参加者 計119人

内 容

各防災拠点の重機研修の内容を充実させるため、災害時に活用する重機操作技術（解体用フォーク）を学ぶ実技研修を実施した。



災害現場を想定した重機操作



アタッチメント交換やメンテナンス方法も習得

(ウ) 拠点研修

実施日 通年

参加者 計20,731人

場 所 各防災拠点設置自治体（年間4回以上/ヵ所）

内 容

油圧ショベルを扱う上で必要となる「小型車両系建設機械（整地・運搬・積込・掘削）特別教育」の受講をはじめ、本事業で配備している資機材（救助艇やドローン等）を活用した実技研修のほか、各地で課題となっている災害時要配慮者への災害対応訓練や避難所開設訓練など、新たな課題に対応した研修計画を策定し、各防災拠点で実施した。



地元学生への防災教育



外国人の給水体験

(エ) 「センター・インストラクター」養成研修内での防災プログラム

実施日 2024年6月15日(土)～16日(日)

参加者 15人

内 容

「センター・インストラクター」養成研修参加者を対象に救助艇の実技や高齢者向けの防災プログラム策定の研修を実施し、海洋性レクリエーションだけではないマルチに活躍できる人材の育成研修を行った。



高齢者疑似体験セットを用いた避難所への移動訓練



救助艇実技研修

③ 防災拠点による被災地支援の実施

防災拠点の自治体担当者等が配備した資機材を活用し、被災地支援を行った。

(ア) 能登半島地震

元日に発生した能登半島地震の被災地では、物資や重機の搬送手段としてのダンプが不足しており、近隣からの入手が困難な状況にあった。

そこで、被災地で活動している日本財団災害対策事業部と連携し、各拠点に配備しているスライドダンプを1月14日から石川県七尾市へ派遣した。

<稼働拠点>

No.	道府県名	自治体名	ダンプ台数
1	青森県	鶴田町	1台
2	福島県	塙町	2台
3	群馬県	明和町	2台
4	岐阜県	可児市	1台
5	長野県	上松町	1台
6	愛知県	新城市	1台
7	石川県	白山市	2台
8	滋賀県	野洲市	1台
9	長野県	大町市	1台
10	宮城県	石巻市	1台
11	福井県	大野市	1台
12	兵庫県	南あわじ市	1台
13	静岡県	牧之原市	1台
		計	16台

(イ) 能登豪雨災害

9月21日から23日にかけて発生した能登半島豪雨において、被災地では土砂撤去等に使用する重機（油圧ショベル・スライドダンプ）が不足。そこで、被災地で活動している日本財団および同財団連携協定団体と連携し、防災拠点に配備した油圧ショベルおよびスライドダンプを被災地へ派遣した。

<稼働拠点>

No.	道府県名	自治体名	ショベル台数	ダンプ台数
1	長野県	上松町	1台	1台
2	滋賀県	野洲市	1台	1台
		計	2台	2台

(ウ) 東北地方豪雪災害

12月末から青森県を中心に大雪をもたらした豪雪災害において、被災地では除雪作業に使用する油圧ショベルおよびスライドダンプ、ならびにそれら进行操作するオペレーターが不足。被災地である青森県平川市からの要請を受け、防災拠点から重機およびオペレーターを派遣し、除雪支援を行った。

<稼働拠点>

No.	道府県名	自治体名	ショベル台数	ダンプ台数	人材派遣
1	秋田県	男鹿市	1台	1台	3人
2	岩手県	久慈市	1台	1台	4人
		計	2台	2台	7人



七尾市に集結するダンプ



青森県平川市の除雪支援

(3) 地域の社会課題解決に向けた新たな拠点整備事業

本事業は、海洋センター建設から30年以上が経過し、大きく変化した地域の社会環境や課題解決に向け、地域住民・自治体・B&G財団が協働して、全国の自治体の先行事例となる各種事業を展開できる新たな拠点を整備するものである。

事業開始年度 2024年度（1年目）

目的 単一機能で通年利用できなかった艇庫に科学館的機能を付加するとともに、幼児でも利用できるインクルーシブ遊具や水とふれあう遊具なども設置することにより、従来では実現できなかった通年での運営を可能にし、より幅広い世代が利用できる広域型の海洋センターを整備する。

「新たな海洋センター整備事業」の適地として、20年連続で海洋センター評価において特Aを獲得している北海道滝川市を選定した。滝川市は艇庫施設を有しており、気候条件に恵まれていないにもかかわらず、利用者数は常に全国トップ3に入る実績を誇っている。しかしながら、現施設は艇庫単体のため通年利用が困難であり、利用者の年齢層も限られていることから、地域のさらなる発展に貢献するうえで課題を抱えていた。

そこで大きく発想を転換し、スポーツとは異なる手法で子どもたちの健全育成が可能な科学館機能に着目。現在注目されているSTEAM教育を取り入れたラボ機能を海洋センターに付加し、従来の艇庫機能とのコラボレーションなど、新たな海洋センターでは相乗効果を活かした活動を実施する。また、施設を建設する北電公園には、グランピング施設、温泉施設、川の科学館があり、既存施設と協働した事業も展開し、市内だけではなく空知管内をターゲットにした通年で利用できる広域型海洋センターとして運用していく。

「新たな海洋センター整備事業」事業連携協定の締結

日程 2024年8月21日

場所 北海道滝川市



海洋センターのフラグシップとなる施設が誕生する



新たな海洋センター（イメージパース）

2 海洋センター・海洋クラブの施設整備事業

海洋センター施設のバリアフリー化を含む機能向上、移設や建替等の大規模改修、ならびに自然災害による被害を受けた施設の復旧に対して助成金を交付し、海洋センターの持続的かつ安定的な活用を推進した。

また、地域に根差した海洋性レクリエーション活動を組織的かつ継続的に実施する団体を海洋クラブ・サポーターとして新たに登録。活動に必要な舟艇等を配備することにより、青少年の健全育成を図るとともに、地域コミュニティの活性化を促進した。既存の海洋センター・クラブに対しては、新たな活動器材や安全器材を追加配備し、活動のさらなる拡充を図った。

(1) 修繕助成金の交付（日本財団助成事業）

①2024年度の修繕助成

2024年度通常修繕・特別施設整備として決定した41施設、年度内の災害復旧修繕として決定した2施設に対して、以下の通り助成金を交付した。（詳細は69頁）

事業開始年度 2001年度（24年目）

目的 幼児から高齢者までの健康増進、青少年の健全育成を推進する海洋センター施設の修繕を行い、利用者数の向上及び活動の活性化を図る。

目標 海洋センターの機能保全だけでなく、地域コミュニティの拠点となるような大規模な改修や多機能化を図ることで多目的な活動を促進する。その効果指標として、修繕実施前年度と比較して、機能保全を目的とした改修においては利用者数10%の増、多機能化を伴う改修の場合は20%増、施設の移設・建替え等を行った場合には50%増を目標とする。

実績

修繕項目	センター数	施設数	助成金額
通常修繕	30	33	428,000,000円
特別施設整備	7	8	371,000,000円（予定）
年度内災害復旧修繕	2	2	34,500,000円（予定）
合計	39	43	833,500,000円（予定）

※一部工事延長中のため、助成金額未確定の施設あり

②2025年度修繕助成の決定

2025年度に修繕を計画している43センター47施設からの申請に対し、海洋センター施設整備委員会の審議を経て日本財団に助成申請を行い、40海洋センター44施設に対し総額810,400,000円の助成金の交付を決定した。

修繕項目	海洋センター数	施設数	助成決定金額
通常修繕	28	29	388,900,000円
特別施設整備	12	15	421,500,000円
合計	40	44	810,400,000円

■ 決定書授与式・リニューアル式典の実施

2024年度の助成金額が1,000万円以上の27自治体（うち1自治体は災害復旧修繕）にて、修繕助成金決定書授与式を実施した。

また、修繕助成により利便性や機能が向上した22カ所の海洋センターでリニューアル式典が開催され、記念イベント等を通じて、生まれ変わった海洋センターを周知することができた。



周防大島町での修繕決定書授与式



北広島町芸北でのリニューアル式典

(2) 新規海洋クラブ・サポーター登録（日本財団助成事業）

海洋クラブは、マリンスポーツの実践活動や水辺の安全教育を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、地域活性化など社会に貢献する活動を行う団体。

2022年度から学校授業や課外活動、地域のサークル、成人クラブなど、水辺の活動を行っている小規模団体等に支援を行うサポーターを新設した。

海洋クラブ・サポーターとして登録する団体は、水辺（海・川・湖）のフィールドにおける活動（マリンスポーツや海洋教育、環境保全活動など）を手法として、青少年の育成や地域貢献活動等の非営利な活動に取り組む自治体や団体（NPO法人や総合型スポーツクラブ、任意団体など）を対象としている。

2025年3月現在、海洋クラブ数は291カ所、サポーター数は25カ所となり、カヌーやSUP・ヨットなどのマリンスポーツ、水辺の環境保全活動や安全学習など、各地でさまざまな活動を展開している。



B&G 池田海洋クラブ
（香川県小豆島町）



函館水産高等学校 B&G 海洋クラブ
（北海道北斗市）



B&G あもりがわ海洋クラブ
（鹿児島県霧島市）

事業開始年度 1977年度

目的 海洋クラブ、サポーターへの活動器材の配備を行い、利用者人数の向上及び活動の活性化を図る。

目標 新たな海洋クラブ・サポーターを登録し、B&Gネットワークを拡充するとともに、舟艇器材等を配備することで水辺活動を支援し、次年度の活動人数を8,400人増やす。

① 新規海洋クラブ・サポーター登録

2024年度は、新たに、9カ所の海洋クラブと、6カ所のサポーターを登録し、カヌー・SUP・ライフジャケット等の活動器材を配備した。

実績 2023年度に登録した海洋クラブ等の2024年度の活動人数は合計8,882人であった。

2024年度に新たに登録された海洋クラブ概要および配備内容

B&G静岡クラブサリーズ海洋クラブ



所在地
静岡県静岡市

主な活動
スポーツアクティビティ

配備金額
200万円

B&G川根カヌースプリント海洋クラブ



所在地
静岡県川根本町

主な活動
カヌー（高校部活動）

配備金額
200万円

B&Gまるよし海洋クラブ



所在地
滋賀県近江八幡市

主な活動
環境保全・地域活性化

配備金額
100万円

B&G志摩サーフシティ海洋クラブ



所在地
三重県志摩市

主な活動
ライフセービング・サーフィン

配備金額
120万円

B&G姫路白浜海洋クラブ



所在地
兵庫県姫路市
主な活動
SUP
配備金額
100万円

B&G牛窓海洋クラブ



所在地
岡山県瀬戸内市
主な活動
SUP
配備金額
100万円

B&G小豆島カッターボート海洋クラブ



所在地
香川県土庄町
主な活動
カッターボート
配備金額
200万円

B&G九十九島海洋クラブ



所在地
長崎県佐世保市
主な活動
SUP
配備金額
200万円

B&G奄美海っ子海洋クラブ



所在地
鹿児島県瀬戸内町
主な活動
マリンスポーツ・
環境保全
配備金額
200万円

《B&Gサポーター一覧》

- ・ B&G河北サポーター（山形県河北町）
- ・ B&Gブラインドセーリング
協会東海支部（愛知県扶桑町）
- ・ B&G淡路島（兵庫県淡路市）
- ・ B&G瀬戸内パドラー（香川県土庄町）
- ・ B&Gなごみ（熊本県和水町）
- ・ B&Gやまねこ（沖縄県石垣市）

我々はこんな団体を募集しています！

◆B&G海洋クラブ

既存の活動をさらに上げたい
更なるステップアップを。

■申請団体

・既に自然フィールドで水辺の安全指導や教育、自然体験活動を実施しているが、配備器材を活用することで更なる既存事業の拡充、新規事業が実施できる団体

A. マリンスポーツや海洋教育、環境保全活動等、主に水辺のフィールドで活動をしている自治体・NPO法人・総合型スポーツクラブ等

B. 現時点でB&G海洋クラブを有していないすべてのB&G海洋センターまたは海洋センター所在自治体

UP!

◆B&Gサポーター

小規模団体も登録可能！
サポーターから始めてみよう。

■申請団体

・既に水辺に関する安全指導を実施しているが、自然フィールドで水辺の体験活動が実施できない／今後、体験活動を拡充していきたい団体
・海洋クラブの登録基準（活動日数10日以上、活動人数500人以上）に満たない小規模団体

例. プールで水辺に関する安全指導を行っている学校



例. 子供たちにカヌー等の体験会を実施している地域サークルや成人クラブ



例. 水辺の生き物観察会、環境学習を行っている小規模団体



クラブにはまだ早いかな？

※B&Gサポーターへ登録後、活動状況によりB&G海洋クラブへの再登録可能！

②2023年度登録海洋クラブ「器材配備式」の実施

昨年度、海洋クラブに登録し、舟艇等の活動器材を配備した5カ所の海洋クラブにおいて、「器材配備式」を実施した。地域における海洋クラブの誕生と舟艇器材の配備を広く地域住民へ周知した。

式典終了後には、配備した器材を使って、参加者向けに体験会や練習会を開催。このイベントにあわせて、B&G財団職員による「水辺の安全教室」を行った。

B&G京丹後海洋クラブ



場 所 京都府京丹後市
日 程 6月2日(日)
配備器材 カヤック・SUP他



カヤック体験会

B&G北川流域海洋クラブ



場 所 宮崎県延岡市
日 程 5月26日(日)
配備器材 カヤック・ライフジャケット



Eボート試乗会

B&G浜松海洋クラブ



場 所 静岡県浜松市
日 程 6月8日(土)
配備器材 SUP・ハンザヨット他



生徒による SUP 指導

B&G Unzen海洋クラブ



場 所 長崎県雲仙市
日 程 11月3日(日)
配備器材 SUP・ライフジャケット



BIGSUP 試乗会

B&Gカゴニコ海洋クラブ



場 所 鹿児島県鹿児島市
日 程 11月9日(土)
配備器材 カヤック・ライフジャケット



カヤック体験会

「水辺の安全教室の様子」



紙芝居の活用



ライフジャケットの
着用方法をレクチャー

(3) 活動器材の配備（日本財団助成事業）

ライフジャケットや救助艇など安全な自然体験活動に必要な不可欠な器材や、水上トランポリンなど活動内容の充実を促す器材を配備することで、安心・安全な海洋センター・クラブ活動を支援し活性化を図る。

事業開始年度：2007年度（17年目）

目的 海洋センター・海洋クラブの活動を充実させる器材等の配備を行い、活動の活性化を図る。

目標 配備先の活動人数を対前年度比10%向上させる

実績 申請件数：27海洋センター、11海洋クラブ

申請金額：総額22,845,806円

配備件数：27海洋センター、11海洋クラブ

助成金額：総額18,061,502円

活動人数：前年度比119%

配備器材例



SUP



バナナボート



水上トランポリン



ライフジャケット



ピアフロート



外置用オーニングカバー

3 海洋センター・海洋クラブの 活性化事業の推進

多様化する地域課題に対応するため、海洋センター・クラブは従来の枠を超えた機能と役割の拡充を進めている。次世代を担う子どもたちへの教育的支援や安全対策の強化、共生社会の実現に向けた障がい者スポーツの普及など、持続可能な社会を目指す先進的な取り組みを推進した。

(1) 学習と体験活動による子育て支援「BG塾」(日本財団助成事業)

地域のスポーツやコミュニティの拠点として活用されている海洋センター・クラブにおいて、マリンスポーツや自然体験などの指導ノウハウを活用し、夏休みなどの長期休暇期間中に、宿題などの「学習」とマリンスポーツなど様々な「体験活動」を提供する子育て支援事業を実施した。

事業開始年度 2018年度(7年目)

目的 共働き世帯やひとり親家庭の増加により、夏休みや冬休みなどの長期休暇中は子どもが一人、家で過ごす時間が増える状況にある。そこで、海洋センターや教育委員会、ボランティア等が連携して長期休暇中の子どもの居場所をつくり、「学習」だけでなく、学校では経験できない海洋性レクリエーション等の多様な「体験活動」を提供し、子育て世帯の支援を行う。

目標 ・実施箇所数23ヵ所、参加人数1,600人
・参加者、保護者の満足度80%以上

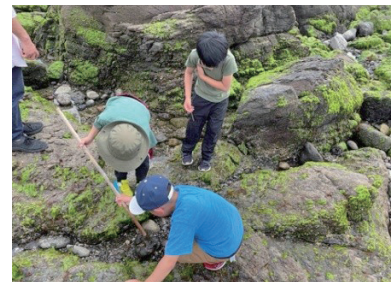
実績 ・実施箇所数23ヵ所(達成率:100%)、参加人数1,847人(達成率:115%)
・参加者の満足度93%(達成率:116%)、保護者の満足度99%(達成率:123%)



学習風景



海レク体験



磯場の食材探し



餅つき & 料理体験



魚の捌き方教室



プール遊び

①2024年度「BG塾」申請一覧 23カ所

No.	道府県	センター・クラブ
1	北海道	大空町女満別B&G海洋センター
2	栃木県	那須烏山市南那須B&G海洋センター
3	埼玉県	幸手市B&G海洋センター
4	新潟県	糸魚川市能生B&G海洋センター
5	長野県	大町市B&G海洋センター
6	長野県	生坂村B&G海洋センター
7	三重県	伊賀市阿山B&G海洋センター
8	三重県	伊賀市大山田B&G海洋センター
9	兵庫県	芦屋市B&G海洋センター
10	兵庫県	豊岡市竹野B&G海洋センター
11	島根県	雲南市加茂B&G海洋センター
12	島根県	浜田市三隅B&G海洋センター

No.	道府県	センター・クラブ
13	山口県	長門市日置B&G海洋センター
14	愛媛県	今治市朝倉B&G海洋センター
15	長崎県	南島原市加津佐B&G海洋センター
16	大分県	国東市武蔵B&G海洋センター
17	鹿児島県	いちき串木野B&G海洋センター
18	北海道	B&G函館水産高等学校海洋クラブ
19	宮城県	B&G石巻ひたかみ水の里海洋クラブ
20	山形県	B&G徳良湖海洋クラブ
21	神奈川県	B&G湘南バディ冒険団海洋クラブ
22	香川県	B&G池田海洋クラブ
23	鹿児島県	B&Gあくね夢まち海洋クラブ

②2024年度「BG塾」表彰センター

本事業の目的に即した「地域人材活用の部」「多様なプログラムの部」の項目にて、優れた活動を実施した海洋センター・クラブ4カ所を表彰した。

部門	センター・クラブ	選定理由
地域人材活用の部	兵庫県豊岡市竹野B&G海洋センター	市役所職員による町のプラゴミ教室をはじめ、図書館司書による読書講座や救命士による講習、警察官による逮捕術など、様々な職域の方を講師としたプログラムを実施し、地域との効果的な連携が図られていた。
	鹿児島県あくね夢まちB&G海洋クラブ	今年度からは新たに放課後デイサービスの子どもの参加も促し、施設スタッフ協力のもと、体験格差の解消も兼ねたBG塾を実施。充実した自然体験に加え、障がい者・健常者問わず、子どもたちの交流の場となっていた。
多様なプログラムの部	香川県B&G池田海洋クラブ	夏休み期間中、10日間連続で異なる様々なプログラムを実施し、島の子ども達の活動拠点として、BG塾本来の目的である居場所づくりに貢献。竹細工教室やカヤックフィッシング、海水から塩づくりなど郷土教育が盛り込まれた内容で地元の魅力を知り体験できる内容で、児童・保護者ともに大変好評であった。
	長崎県南島原市加津佐B&G海洋センター	数学の要素を取り入れたパズルや謎解きなど、「想像力」や「論理的思考」を高める学習プログラムを行い、その学びを自然体験活動にも活かす構成で、考える力を育むユニークなBG塾を展開。市外からも好事例として参考にされるなど、事業の広がりがみられた。



「駐在さんによる指紋採取体験」
(豊岡市竹野)



「間伐材を使って地元の案内看板を作成」
(あくね夢まち海洋クラブ)



「自作のお椀とお箸を用いて流しそうめん」
(池田海洋クラブ)



「クリエイティブ名詞の作成」
(南島原市加津佐)

(2) 次世代型海洋センター艇庫を活用した地方の魅力創生（日本財団助成事業）

「次世代型艇庫」は、艇庫施設を海洋性レクリエーションだけでなく、幅広い世代が様々な体験活動ができる施設へと刷新し、県内外の利用促進、交流人口の拡大などを目的に実施している。

事業開始年度 2019年度（6年目）

①千葉県 香取市 地域の水と緑を活かしたハイブリッド型自然体験機会の提供

目的 香取市山田B&G海洋センター艇庫は、市内唯一の総合公園「橘ふれあい公園」の敷地内にあり、同公園の大規模な整備にあわせて海洋センター艇庫を移設。地域の水と緑を活かしたハイブリッド型自然体験を提供する拠点として活動の活性化を図る。

事業開始年度 2022年度（3ヵ年事業の3年目）

目標 年間利用者 2,000人以上

実績 年間利用者 3,962人

<主な実績>

(ア) 「いきいき山田鯉のぼりまつり・たちばなパークフェスwork×work」

鯉のぼり掲揚期間であるゴールデンウィークに同公園を訪れる方々を対象にイベントを実施。地域住民をはじめ多く来場者で賑わった。

日時 2024年5月3日（祝金）～5月5日（日）

参加者 903人（イベント全体来訪者数：8,902人）

内容 足漕ぎボートやカヌー、SUP、BIGローラー体験のほか、キッチンカーなどを配置しイベントを盛り上げた。また日本航空と協働で、紙飛行機を飛ばす等の「JAL空育」プログラムを子どもたちを対象に実施。その他にもショベルカー・測量体験など職業体験イベントを追加し、内容の充実を図った。



艇庫でのBIGローラー体験



JAL「空育」（艇庫2階）

(イ) 「サマーキックオフ in 橘ふれあい公園」

ふれあい公園の指定管理者と共同で新たに実施。マリンスポーツ体験のほか、艇庫2階を活用したコンサートやカラオケ大などを実施。日中は水上アクティビティ、夕方以降はコンサート等のイベントを実施したことで、日中だけでなく、夜間まで有効活用することができた。

日時 2024年7月20日（土）

参加者 1,082人



BIG SUP に乗る様子



艇庫2階のコンサート

(ウ) 「年度末事業報告会」

今年度が3ヵ年の最終年度であったため、これまでの事業内容や成果、課題、今後の展望について市の執行部と情報共有及び意見交換を行った。今後も本事業で行ったイベントはじめ、活動を活性化させることで意見が一致した。

日時 2025年2月6日（木）

参加者 ・香取市 市長 伊藤 友則
・香取市 教育長 堀越 洋
・B&G財団 常務理事 朝日田 智昭



市長挨拶



報告会の様子

②秋田県 にかほ市 アウトドアアクティビティを通じた交流人口の拡大や新たな賑わいの場の創出

目的 にかほ市金浦B&G海洋センター艇庫をアウトドアアクティビティの拠点として建替えを行い、交流人口の拡大や新たな賑わいの場の創出を図る。

事業開始年度 2024年度（3ヵ年事業の1年目）

目標 年間利用者 1,900人以上

実績 年間利用者 2,053人

<主な実績>

(ア)「事業実施における調印式の実施」

事業コンセプトや連携協力事項の確認、事業終了後の活動継続などについて市の執行部と確認し、協定書を締結した。

日時 2024年7月9日(火)

参加者

- ・にかほ市 市長 市川 雄次
- ・にかほ市 副市長 本田 雅之
- ・にかほ市 教育長 小園 敦
- ・B&G財団 理事長 菅原 悟志



協定書調印

(イ)「プレオープンイベント」

にかほ市主催の「スポレク祭」の開催に合わせ、カヌー体験会を実施。「エスパーク★にかほ」（多目的屋内運動場）などの周辺体育施設や公民館と連携し、様々なスポーツプログラムを提供した。

日時 2024年10月14日(月・祝)

参加者 626人

(イベント全体来訪者数：1,000人)



カヌー体験の様子



屋内運動場イベントの様子

(ウ)「ウィンターイベント（スノートレッキング）」

これまで市が別会場で開催していた「にかほdeスノートレッキング」を、海洋センター艇庫前を発着地点として実施。リニューアル後の艇庫イベントとしての試験実施を行った。

日時 2025年1月18日(土)

参加者 35人

内容

- ・スノーシューを用いた雪山のトレッキング
- ・ジオガイドによる植物や動物の解説
- ・雪山をそりで滑るアクティビティ



出発前の様子



トレッキングの様子



ガイドによる解説

(3) 熱中症対策事業（日本財団助成事業）

海洋センタープール内で急病人が発生した際、迅速に対応できるよう、冷暖房付きプレハブ型の救護室や救護備品を配備する特別支援事業として実施している。

事業開始年度 2023年度（2年目）

目的 冷暖房を備えたプレハブ型の救護室、救護ベッド、レスキューベンチ、大型扇風機の設置を行い、海洋センタープールにおける熱中症患者等を速やかに救護できる環境を整備。より安心安全な施設運営を推進する。

目標 30カ所

実績 30カ所

【2023年度 設置海洋センター一覧】

No.	道府県名	海洋センター名
1	北海道	古平町
2	北海道	上富良野町
3	北海道	大空町女満別
4	北海道	大空町東藻琴
5	北海道	斜里町
6	青森県	南部町名川
7	岩手県	一関市東山
8	茨城県	常陸太田市水府
9	千葉県	鋸南町
10	山梨県	中央市玉穂

No.	道府県名	海洋センター名
11	福井県	越前町朝日
12	愛知県	東栄町
13	三重県	大紀町大内山
14	三重県	菰野町
15	滋賀県	多賀町
16	岡山県	浅口市寄島
17	岡山県	井原市井原
18	岡山県	井原市美星
19	岡山県	瀬戸内市邑久
20	岡山県	瀬戸内市長船

No.	道府県名	海洋センター名
21	広島県	北広島町芸北
22	山口県	周防大島町
23	山口県	田布施町
24	愛媛県	今治市朝倉
25	愛媛県	今治市吉海
26	愛媛県	久万高原町久万
27	徳島県	美波町由岐
28	大分県	豊後高田市真玉
29	鹿児島県	鹿屋市串良
30	鹿児島県	天城町

【昨年度からの変更点】

- ・豪雪地域への設置を実施

一定の積雪量に耐えうる仕様の救護室を選定したことで、昨年度設置ができなかった北海道や東北・北陸地方など豪雪地域への救護室設置を可能にした。全国的にも酷暑が続く状況の中で、設置可能な海洋センターを拡大し、より多くの海洋センターで熱中症対策を行うことができるようになった。

【救護室配備式・救護室の様子】



大空町東藻琴 救護室配備式の様子



豪雪地域（北海道）に設置された屋外型の救護室

【熱中症対策事業レポート】

気候変動の影響で猛暑日が年々増加傾向にある中で、プール室の高温による熱中症リスクに配慮し、利用者の安全を確保することを目的に、救護ベッド・レスキューベンチ、エアコンなどを備えた「救護室」を配備。2025年3月時点で、全国60カ所の海洋センターへの設置を完了している。

久万高原町久万B&G海洋センター（愛媛県）

平均標高800mの高原の町。朝や夜は涼しいが昼間は猛暑となる。「近年の異常気象は当地も例外ではなく、熱中症には細心の注意を払わなくてはならない」と海洋センター所長の段氏は話す。

一般利用のほかに町内の小学校2校、中学校1校の水泳授業を行っている。これまでの対策としては、①2日に1度の頻度で4トンの水を給水。水温を24度から30度にキープする、②プールサイドに大型扇風機3台を設置し空気を循環させる、③一人一人必ず水分補給用の飲料水を持参させる、④気温が上昇した時は上屋シートをまくって風通しを良くするなどに対応をとっていた。

救護室を設置して以降、利用者だけでなく、付き添いの保護者、高齢者、授業見学者の使用するケースも多い。「救護室があるとないとでは、熱中症対策において安心感が全く違う」「これまでの対策と併用し早め早めの対策が功を奏す」といった意見が学校関係者から寄せられ、好評を得ている。



井原市井原B&G海洋センター（岡山県）

会員数4万5000人を誇る屋内温水プール。65歳以上の会員数も1万人を超え、水中ウォーキングやアクアビクスなどに通う高齢者が非常に多い。

これまでの熱中症対策としては、①遮光ネット、②水道ホースを使ったミストシャワーの設置がある。遮光ネットは農業用のものを使用。屋根全体を覆うことができるサイズに裁断し、強い日差しを遮断する。ミストシャワーは10年程前から導入。一時的ではあるが、微小な水の粒子が気体化することによって周囲の温度（2～3度）を下げる効果がある。プールで汗をかいた体には心地が良く効果がある。

利用者や保護者、アルバイト監視員など、年間10人程度が軽度の熱中症になる。「高齢の利用者が多いので、救護室はたいへんありがたい」「これまでより安心して指導ができる」と担当者は笑顔で語った。



（4）地域と連携した障がい者スポーツ基盤整備事業の実施（体験格差解消寄付金事業）

地域の障がい児・者が定期的にスポーツやレクリエーションを楽しむことができる機会を提供するための基盤をつくり、障がい児等の心身の健全な発達を支援し、インクルーシブな社会の実現を推進することを目的に実施した。



南アルプス市白根で開催したアクアフェスタ

事業開始年度 2024年度（1年目）

目的 障がい児・者が多様なスポーツやレクリエーションを継続的に楽しめる環境を自治体の社会体育施設である海洋センターに整えることで、地域の障がい児・者がスポーツやレクリエーションを楽しむことができる機会創出と基盤づくりを行い、障がい児等の心身の健全な発達を支援し、インクルーシブな社会の実現を推進する。

- 目標**
- ・各実施地において障がい児・者に対し定期的な運動機会が提供できる推進体制の構築
 - ・指導者・ボランティア研修会の開催
 - ・定期的なスポーツ・文化教室等の開催（障がい児・者対象、年間6回程度、参加者200人程度/カ所）

実績

主な事業内容

①人材育成

定期的な教室等の実施に先立ち、各実施先において、指導員・スタッフの研修を行い、障がい児・者への運動指導に伴う留意点や障害者スポーツの指導方法などについて学んだ。



嵐山町で行われた障害者スポーツ研修会

②定期的なスポーツ教室等の実施

地域の障害者福祉団体や放課後等デイサービスなどと連携し、障がい児・者への定期的なスポーツ教室等を実施。介助スタッフ等を含め、年間のべ2,766人（うち、障がい児・者1,826人）が参加した。

No.	道府県	海洋センター・クラブ名	実施回数	合計人数	うち 障がい児・者
1	北海道	大空町女満別B&G海洋センター	全13回	210人	85人
2	北海道	砂川市B&G海洋センター	全22回	613人	474人
3	青森県	平川市尾上B&G海洋センター	全6回	169人	119人
4	埼玉県	嵐山町B&G海洋センター	全8回	215人	136人
5	山梨県	山梨市牧丘B&G海洋センター	全4回	58人	46人
6	山梨県	南アルプス市白根B&G海洋センター	全19回	477人	435人
7	岡山県	井原市井原・美星B&G海洋センター	全10回	517人	216人
8	広島県	東広島市黒瀬・安芸津B&G海洋センター	全8回	231人	137人
9	徳島県	美波町由岐B&G海洋センター	全8回	215人	136人
10	高知県	B&GYASU海洋クラブ	全3回	61人	42人
合計			-	2,766人	1,826人



砂川市での Big SUP 体験



平川市プールでの浮島わたり



東広島市ではモルック体験も実施

(5) 海洋センターの評価と表彰

海洋センターの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、B&G財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による評価を2002年度より実施。年度ごとに、海洋センター個々の評価結果を公表している。

○評価別 海洋センター数 (2023年度実績)

特A	A	B	C	D	E
306	77	51	22	4	1

①優良海洋センターの表彰 (特A・A)

「第17回B&G全国サミット」では、2023年度の年間評価において、「特A」評価を獲得した306カ所、「A」評価の77カ所を紹介した後、今回新たに10年連続で「特A」評価を獲得した20自治体（21海洋センター）および、20年連続「特A」評価を獲得した広島県府中市、愛媛県愛南町の表彰を行った。

○20年連続「特A」評価獲得センター一覧 (2023年度実績)

No.	道府県	センター名
1	広島県	府中市B&G海洋センター
2	愛媛県	愛南町御荘B&G海洋センター

○10年連続「特A」評価獲得センター一覧 (2023年度実績)

No.	道府県	センター名	No.	道府県	センター名
1	北海道	小平町B&G海洋センター	11	新潟県	佐渡市小木B&G海洋センター
2		遠別町B&G海洋センター	12	富山県	富山市八尾B&G海洋センター
3		北竜町B&G海洋センター	13	福井県	坂井市丸岡B&G海洋センター
4		芦別市B&G海洋センター	14	岐阜県	中津川市福岡B&G海洋センター
5		上富良野町B&G海洋センター	15		富加町B&G海洋センター
6	青森県	平川市尾上B&G海洋センター	16	静岡県	沼津市戸田B&G海洋センター
7	岩手県	洋野町種市B&G海洋センター	17	愛知県	豊川市小坂井B&G海洋センター
8	秋田県	由利本荘市西目B&G海洋センター	18	滋賀県	多賀町B&G海洋センター
9	埼玉県	吉見町B&G海洋センター	19	愛媛県	今治市朝倉B&G海洋センター
10	新潟県	新潟市味方B&G海洋センター	20	福岡県	大任町B&G海洋センター
		新潟市新津B&G海洋センター			

2023年度 海洋センター評価「特A」評価一覧

■2023年度「特A評価」海洋センター 306カ所／461カ所

オレンジ 10年以上連続特A 青 9年連続特A 緑 8年連続特A

【評価期間】2023年4月1日～2024年3月31日

No.	ブロック	道府県	センター名	連続数	No.	ブロック	道府県	センター名	連続数	No.	ブロック	道府県	センター名	連続数
1	北海道	北海道	砂川市	16	14	北海道	北海道	東神楽町	9	27	北海道	北海道	岩見沢市栗沢	
2			小平町	10	15			名寄市風連	13	28			苫前町	13
3			厚岸町	13	16			積丹町	15	29			滝川市	22
4			剣淵町	14	17			芦別市	10	30			古平町	14
5			大樹町	16	18			長万部町		31			室蘭市	8
6			鷹栖町	15	19			上富良野町	10	32			弘前市	13
7			斜里町	13	20			東川町		33			平川市尾上	10
8			愛別町	15	21			美幌町	15	34			鶴田町	11
9			遠別町	10	22			大空町女満別	14	35			南部町名川	21
10			新篠津村	9	23			石狩市	17	36			平内町	
11			大空町東藻琴	14	24			浦臼町	14	37			五所川原市金木	
12			北竜町	10	25			秩父別町		38			六戸町	14
13			下川町		26			沼田町	13	39			中泊町中里	

No.	ブロック	道府県	センター名	連続数	No.	ブロック	道府県	センター名	連続数	No.	ブロック	道府県	センター名	連続数		
40	東北	青森	弘前市岩木	8	112	北陸	新潟	新潟市味方	10	184	近畿	滋賀	甲賀市甲賀			
41			山田町		113			新潟市新津	10	185			京都	近江八幡市安土		
42			久慈市山形	15	114			砺波市	13	186				南丹市園部		
43			一関市東山	12	115			富山	南砺市福野	17		187			南あわじ市南淡	17
44			岩泉町		116				富山市八尾	10		188			宍粟市千種	8
45			岩手	洋野町種市	10		117		穴水町	16		189			新温泉町浜坂	
46				八幡平市松尾	118			石川	志賀町富来	14		190			豊岡市出石	8
47				大船渡市三陸	8		119		白山市鶴来			191			市川町	
48				奥州市前沢	12		120		越前町朝日			192			養父市おおや	12
49				一関市藤沢	11		121		勝山市			193			上郡町	16
50				登米市中田			122		あわら市金津			194			豊岡市竹野	
51				涌谷町			123		大野市	13		195			香美町香住	16
52				巨理町	15		124		坂井市春江	8		196			姫路市家島	8
53				松島町			125		坂井市丸岡	10		197			淡路市東浦	
54				川崎町	15		126					198			宍粟市波賀	
55				大郷町	14		127					199			芦屋市	
56				大崎市松山	8		128					200			猪名川町	15
57				蔵王町	17		129					201			串本町	15
58				登米市迫			130					202			鳥取市	13
59				加美町中新田			131					203			鳥取市気高	
60				にかほ市金浦			132					204			鳥取市鹿野	
61				男鹿市	12		133					205			北栄町北条	14
62				由利本荘市西目	10		134					206			伯耆町岸本	14
63				八郎潟町			135					207			松江市松江	9
64				大潟村			136					208			江津市桜江	15
65				由利本荘市由利	9		137					209			浜田市三隅	15
66				にかほ市象潟	14		138					210			雲南市加茂	18
67				舟形町	12		139					211			岡山市建部	8
68				酒田市平田	13		140					212			備前市吉永	12
69				柳津町			141					213			新見市哲多	
70				小野町	17		142					214			井原市美星	9
71				搞町	11		143					215			津山市加茂	12
72				田村市滝根			144					216			浅口市寄島	
73				かずみがうら市千代田			145					217			美作市作東	
74				小美玉市玉里			146					218			井原市井原	13
75				八千代町			147					219			浅口市鴨方	
76				北茨城市	12		148					220			奈義町	14
77				石岡市	8		149					221			瀬戸内市長船	
78				五霞町	14		150					222			瀬戸内市邑久	17
79				小美玉市小川	8		151					223			矢掛町	15
80				常陸太田市水府	8		152					224			鏡野町	15
81				下野市国分寺	13		153					225			赤磐市吉井	14
82				那須烏山市南那須	14		154					226			新見市大佐	
83				さくら市喜連川			155					227			府中市	20
84				芳賀町	18		156					228			東広島市黒瀬	12
85				みなかみ町新治			157					229			呉市蒲刈	
86				明和町	17		158					230			安芸高田市高宮	8
87				玉村町	17		159					231			尾道市向島	
88				吉見町	10		160					232			北広島町大朝	
89				幸手市			161					233			北広島町芸北	8
90				嵐山町	9		162					234			東広島市安芸津	12
91				久喜市栗橋	21		163					235			萩市むつみ	
92				松伏町	14		164					236			田布施町	
93				白岡市	14		165					237			長門市日置	9
94				いすみ市	9		166					238			周防大島町	18
95				横芝光町横芝	16		167					239			岩国市美和	
96				香取市小見川	14		168					240			阿南市那賀川	9
97				大多喜町	14		169					241			徳島市	16
98				香取市栗源	8		170					242			阿南市	9
99				南房総市千倉			171					243			東みよし町三加茂	
100				成田市大栄	11		172					244			美波町由岐	8
101				香取市山田			173					245			那賀町鷺敷	13
102				鏡南町	15		174					246			海陽町海南	9
103				横芝光町光	16		175					247			さぬき市津田	
104				胎内市中条	15		176					248			小豆島町内海	15
105				阿賀町三川			177					249			さぬき市寒川	
106				佐渡市小木	10		178					250			三豊市高瀬	
107				燕市	12		179					251			綾川町綾上	
108				阿賀野市安田			180					252			高松市国分寺	8
109				上越市頸城	8		181					253			三豊市財田	
110				糸魚川市能生			182					254			三木町	8
111			新潟市中之口	9	183				255			今治市吉海				

No.	ブロック	道府県	センター名	連続数	No.	ブロック	道府県	センター名	連続数	No.	ブロック	道府県	センター名	連続数
256	四国	愛媛	久万高原町久万		273	北九州	佐賀	神崎市	16	290	南九州	熊本	熊本市城南	
257			松山市中島	17	274			鹿島市	8	291			玉名市岱明	9
258			鬼北町広見	11	275			みやき町北茂安		292			南関町	8
259			西条市丹原	8	276			南島原市加津佐	9	293			南阿蘇村白水	
260			愛南町御荘	20	277			南島原市西有家		294			宇城市三角	
261		今治市朝倉	10	278	時津町		16	295	菊池市旭志	8				
262		高知	津野町東津野	15	279		杵築市		296	いちき串木野市串木野		17		
263			四万十町窪川	16	280		国東市武蔵		297	長島町		16		
264			福岡	宮若市宮田			281	宇佐市安心院		298		阿久根市	12	
265				みやこ町犀川			282	中津市耶馬溪	12	299		さつま町	15	
266	大任町			10	283	国東市国見		300	日置市東市来	16				
267	築上町築城	11		284	豊後高田市真玉		301	天城町	13					
268	みやこ町豊津			285	由布市挾間		302	南大隅町佐多						
269	北九州	福岡	久留米市三潁	9	286	南九州	熊本	長洲町	14	303	南さつま市坊津	11		
270			川崎町	8	287			津奈木町	13	304	与論町	15		
271			朝倉市甘木	15	288			湯前町	15	305	奄美市笠利	8		
272			佐賀	太良町	11			289	菊池市泗水	9	306	沖縄	名護市	

2023年度 海洋センター評価「A」評価一覧

■2023年度「A評価」海洋センター 77カ所/461カ所

No.	ブロック	道府県	センター名	
1	北海道	北海道	枝幸町歌登	
2			名寄市	
3			和寒町	
4	東北	青森	五所川原市市浦	
5			十和田市	
6		岩手	九戸村	
7			普代村	
8			花巻市東和	
9			陸前高田市	
10		宮城	登米市米山	
11			栗原市築館	
12		秋田	能代市	
13			潟上市天王	
14	由利本荘市大内			
15	潟上市飯田川			
16	三種町八竜			
17	福島		本宮市白沢	
18	関東	茨城	笠間市岩間	
19		栃木	鹿沼市粟野	
20			那須塩原市塩原	
21		群馬	板倉町	
22	千葉	御宿町		
23	北陸	新潟	阿賀町津川	
24			阿賀町上川	
25			佐渡市羽茂	
26		富山	上市町	
27			富山市大山	
28		高岡市福岡		
29		石川	七尾市	
30		福井	若狭町三方	
31		中部	長野	富士見町
32				飯田市南信濃
33	山形村			
34	松本市四賀			
35	岐阜		恵那市山岡	
36			高山市清見	
37	静岡		袋井市袋井	
38			浜松市天竜	
39	三重		大台町	

No.	ブロック	道府県	センター名
40	中部	三重	いなべ市大安
41	近畿	京都	宮津市
42			京丹波町和知
43		大阪	堺市美原
44			能勢町
45		兵庫	丹波篠山市
46			丹波市山南
47		奈良	曾爾村
48		和歌山	広川町
49	中国	鳥取	鳥取市佐治
50		島根	美郷町邑智
51			松江市宍道
52		岡山	真庭市蒜山
53	広島	安芸高田市八千代	
54		安芸高田市美土里	
55	四国	徳島	牟岐町
56		愛媛	今治市大三島
57	北九州	福岡	柳川市大和
58			宗像市玄海
59			みやま市高田
60			飯塚市穂波
61			みやま市瀬高
62			福智町金田
63		築上町椎田	
64		長崎	佐世保市小佐々
65			平戸市生月
66		大分	日田市天瀬
67	竹田市直入		
68	南九州	熊本	美里町砥用
69			あさぎり町免田
70		宮崎	日南市南郷
71			宮崎市田野
72	鹿児島	鹿屋市串良	
73		薩摩川内市樋脇	
74		志布志市有明	
75	薩摩川内市上甕		
76	沖縄	本部町	
77		うるま市勝連	



(6) 海洋クラブの評価と表彰

海洋クラブの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、公正な支援活動の指標として、統一された評価基準による海洋クラブの評価を2003年度から行っている。

2023年度評価において「特A」評価を獲得した78クラブに対して表彰状を送付した。

2023年度 「特A」 評価海洋クラブ一覧

No.	道府県	海洋クラブ名	No.	道府県	海洋クラブ名
1	北海道	鷹栖	40	滋賀県	KARAHASHI
2	北海道	滝川	41	兵庫県	伊丹
3	北海道	函館水産高等学校	42	兵庫県	家島
4	青森県	尾上	43	兵庫県	兵庫ジュニア
5	青森県	弘前	44	兵庫県	神戸
6	宮城県	中田	45	和歌山県	和歌浦
7	宮城県	石巻ひたかみ水の里	46	島根県	三隅
8	山形県	徳良湖	47	島根県	桜江
9	茨城県	土浦	48	岡山県	建部
10	茨城県	龍ヶ崎市	49	山口県	大島
11	茨城県	Next One.つくば	50	山口県	光スポーツ交流村
12	栃木県	下野市国分寺	51	香川県	高瀬
13	群馬県	吉井	52	香川県	香川国分寺
14	群馬県	明和	53	香川県	三木
15	千葉県	横芝光	54	香川県	池田
16	千葉県	香取市小見川	55	香川県	高松
17	神奈川県	江の島	56	愛媛県	松山
18	神奈川県	葉山	57	愛媛県	中島
19	神奈川県	HONKI University	58	愛媛県	大三島
20	神奈川県	湘南バディ	59	愛媛県	御荘
21	神奈川県	海の森・山の森	60	愛媛県	新居浜
22	神奈川県	横浜	61	高知県	くろしお
23	神奈川県	三浦	62	福岡県	津屋崎
24	富山県	砺波	63	福岡県	福岡ジュニアヨット
25	富山県	福野	64	佐賀県	神埼
26	富山県	富山	65	長崎県	加津佐
27	福井県	あわら	66	長崎県	時津
28	福井県	おおの	67	熊本県	津奈木
29	山梨県	やまなし	68	熊本県	長洲
30	山梨県	南アルプス	69	大分県	別府
31	長野県	大町	70	大分県	耶馬溪
32	長野県	上松	71	宮崎県	トトロ
33	静岡県	御前崎	72	宮崎県	日向市サーフィン
34	静岡県	相良	73	鹿児島県	錦江湾
35	静岡県	海クラブ伊豆	74	鹿児島県	アマニコ
36	愛知県	作手	75	鹿児島県	大崎わんぱーく
37	三重県	かわげ	76	鹿児島県	あくね夢まち
38	三重県	みえ	77	鹿児島県	マリンパークたるみず
39	滋賀県	中主	78	鹿児島県	あもりがわ

●評価別 海洋クラブ数 (2023年度実績)

特A	A	B	C	D	E (休部)
78	41	49	27	62	19

(7) その他の支援事業

① マリンスポーツ技能認定

この制度は、カヌー・ヨット等の技能認定基準を設けることにより、日頃から活動する子どもたちの活動意欲と技能向上を図るとともに、海洋センター・クラブの活性化に寄与することを目的に実施している。

実績 カヌー、ヨット、水泳の技術を認定する技能認定テストを海洋センター・クラブに委託して実施した。

種別	申請センター・クラブ数	参加者数
技能認定書	44海洋センター	2,508人

実施内容：

技能認定種類	概要
カヌー	技術レベルに応じて1級から5級を認定
OPヨット	
水泳	技術レベルに応じて1級から10級を認定
総合	全種目の総合的な技術レベルとして1級から5級を認定

② 会長賞・賞状等の交付

この制度は、ブロックおよび道府県連絡協議会、海洋センター、クラブ等で開催される各種大会を奨励し、「会長賞」を交付することで海洋センター・クラブの活性化に寄与することを目的に実施している。

実績 海洋センター・クラブが開催する「B&G財団会長賞」(大会)に賞状を交付した。

種別	申請センター・クラブ数	参加者数
B&G財団会長賞	93海洋センター	13,341人



B&G財団会長杯第36回山梨市牧丘B&G海洋センター剣道大会

③ 誰もが参加できるレクリエーション大会「B&Gチャレンジ」

海洋センターをこれまでのスポーツ振興の場にとどまらず、子どもからお年寄りまで「誰からも親しまれ、気軽に集え楽しめる」場所へと変化させることを目的に、体育館24種目とプール6種目の簡単なレクリエーションゲームを提供した。

実績 子どもからお年寄りまで3,635人の方が参加した。

種別	申請センター・クラブ数	参加者数
B&Gチャレンジ	114海洋センター	3,635人



安芸高田市高宮センターの様子

④ 2024年度プールカヌー・SUPタイムトライアル

B&G全国指導者会との共催で、海洋センター利用者、海洋クラブ員等を対象に、25mプールを独自のルールで周回するカヌーとSUPのタイムトライアルレースを実施し、気軽に海洋性レクリエーションに親しむ機会を提供することを目的に実施している。

実績 93海洋センター・クラブから、436人が参加した。



SUP トライアル

4 誰もが海に親しめる事業の推進

日本は、海から多くの恵みを受容してきたが、レジャーや余暇活動の多様化などが要因となり、海水浴人口が減少し「海離れ」が加速している。

そうした中、全国の学校や海洋センター・クラブ所在自治体などの地域と連携し、海洋に関する国民の理解と関心を深めるため、「海の安全」に関する水辺の安全学習や清掃活動、海洋性レクリエーション体験を行い、誰もが海に親しめる事業を推進している。

(1) 学校・地域への「海の安全」教育を推進する事業の全国開催 (海と日本PROJECT 日本財団助成事業)

全国の海洋センタープール等を会場に、「水辺の安全教室」を開催し、背浮きや着衣泳、ライフジャケットを使った浮遊体験、落水時の対処法などの実技指導と水難事故防止のための学習・啓発を通じて、子どもたちに「海の安全」を実践的に学ぶ機会を提供した。

また、新規登録の海洋クラブには、水辺の安全教室プログラムの提供や実技指導ノウハウ、教材・指導ツール等のサポートを行った。

事業開始年度 2015年度(10年目)

目的 全国の学校や海洋センター・クラブ所在自治体などと連携し、体験と啓発を通じて「海の安全」について学ぶ機会を提供し、「海」に対する理解を深めるとともに、誰もが安心して海に親しめる環境を整える。

目標 340,000人

実績 343,833人



「背浮き」指導と体験(模範例)

① 学校プール・教室等での安全教室の実施

海洋センター所在自治体の小中学校のプール授業等において、「水辺の安全教室」を開催した。

学校数 1,073校

参加者数 80,770人

② 教員を対象とした研修会の開催

実施数 76海洋センター

参加者数 375校・882人



「教員向け研修会」の様相

③ 水辺の安全学習アプリによる安全教育

時期 通年

対象 全国の小中学校等の児童・生徒および一般利用

参加者 502校・78,263人(学校関係)、61,000人(一般利用) 合計139,263人

水辺の安全学習アプリ <https://mizube-anzen.jp/>

※無償公開中



学習アプリ トップページ



ICT 教材として好評活用中

④全国の海洋センター・海洋クラブでの開催

「海の日」に対する理解を深め、海や水辺での安全教育を広く普及するため、全国の海洋センター・クラブにおいて「水辺の安全教室」を実施した。

時 期 通年

実施数 410海洋センター・104海洋クラブ

参加者数 98,559人



自然フィールドでのライフジャケット浮遊体験



ライフジャケット着用の実践

⑤B&G財団事業等での実施

B&G財団主催事業のほか、自治体等との共催、協力事業において水辺の安全教室を行い、15事業に20,820人が参加した。

水辺の安全教室 参加者総数

項目	参加者数
海洋センター・海洋クラブ	98,559人
学校（全国）	3,539人
学校（B&G所在市町村）	80,770人
学校（教員研修等）	882人
学習アプリ	139,263人
財団事業等	20,820人
合計	343,833人

(2) 海の日に関するイベントの開催

海岸イベント「砂ASOBeach」の開催（海と日本PROJECT 日本財団助成事業）

これまで、海に入らなくても、水着にならなくても海で遊べるイベントとして実施してきたが、水上遊具やメガSUP等小さな子どもでも手軽に水上を楽しめる器材の普及により、プログラムを拡大し、海でも楽しめるプログラムを加えて、全国18カ所で開催。多くの人たちに海や水辺に親しむ機会を提供した。

事業開始年度 2017年度（8年目）

目的 海水浴場や湖沼の岸辺等で、砂浜や水辺で楽しく遊べるイベント「砂ASOBeach」を開催し、海への理解を深めるとともに、海に親しむことによって、海離れの解消に繋げる。

目標 参加人数 6,000人

実績 参加人数 8,760人

実施箇所数 18カ所

【実施プログラム】

スラックライン体験・ボディボード体験・宝探し・ビーチコーミング・カヤック体験・SUP体験・BIG SUP体験・ウィンドサーフィン・サンダルかご入れ・ビーチフラッグ・フレスコボール・モルック・防災教室・バナナボート体験 ほか

【実施場所】

No.	道府県名	センター・クラブ名	日程	参加者	区分
1	秋田県	にかほ市象潟・金浦B&G海洋センター	2024年9月8日	370人	新規
2	福井県	勝山市B&G海洋センター	2024年7月14日	455人	新規
3	静岡県	B&G浜松海洋クラブ	2024年10月27日、11月10日	422人	新規
4	静岡県	海クラブ伊豆B&G伊豆海洋クラブ	2024年8月2日、9月7日	631人	新規
5	三重県	B&Gみえ海洋クラブ	2024年7月20日・27日・28日、9月28日・29日	448人	新規
6	島根県	浜田市三隅B&G海洋センター	2024年9月16日	504人	新規
7	北海道	函館水産高等学校B&G海洋クラブ	2024年8月22日	385人	継続
8	山形県	B&G徳良湖海洋クラブ	2024年8月4日	648人	継続
9	神奈川県	B&G横浜海洋クラブ	2024年12月21日	351人	継続
10	三重県	志摩市浜島B&G海洋センター	2024年9月23日	360人	継続
11	滋賀県	B&GKARAHASHI 海洋クラブ	2024年11月4日	374人	継続
12	広島県	B&G江田島海洋クラブ	2024年10月26日	354人	継続
13	島根県	B&G琴ヶ浜海洋クラブ	2024年7月28日	450人	継続
14	長崎県	南島原市加津佐B&G海洋センター	2024年8月4日	842人	継続
15	大分県	B&G別府海洋クラブ	2025年3月15日	60人	継続
16	鹿児島県	B&Gあくね夢まち海洋クラブ	2024年8月11日	1,111人	継続
17	鹿児島県	長島町B&G海洋センター	2024年9月14日	560人	継続
18	鹿児島県	与論町B&G海洋センター	2024年8月10日	435人	継続



バナナボート体験



サーフィン体験



海の環境について

(3) 海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動の実施

(海と日本PROJECT 日本財団助成事業)

世界的に深刻化している海洋ごみ問題は、水辺で多くの実践活動を行う海洋センター・クラブが一丸となって取り組むべき社会課題と捉え、水上、水中、海浜、陸上などでの清掃活動や、海洋ごみ問題を学び、行動につなげるワークショップ等を展開している。

事業開始年度 2019年度（6年目）

目的 全国の海洋センター・クラブ等で、水辺等でのクリーン活動を展開し、海洋ごみの削減を図るとともに、海洋ごみに関する知識、環境保全意識の向上を図る。

目標 強化期間での全国一斉清掃活動の開催 200カ所 20,000人

実績 強化期間での全国一斉清掃活動の開催 354カ所 20,575人

①海ごみゼロフェスティバル

海洋ごみ問題の対策として、日本財団と環境省が共同事業として、海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動「海ごみゼロウィーク」を推進している。B&G財団はこの取り組みに賛同し、全国のB&G海洋センター・クラブと共に海洋ゴミ削減に向けた取り組みとして「海ごみゼロフェスティバル」を実施した。

多くの海洋センター・クラブから協力を得た結果、カヌー・SUP・OPヨット等を活用した水上清掃や海洋ごみに関するワークショップなど、各地で工夫しながら実施。その中で、「通常清掃の部」「ワークショップ（オンライン含む）の部」「水上清掃の部」「特別賞」の4部門において、特に海洋ごみ削減に寄与した団体を選出し、表彰を行った。



SUP やカヌーを使った水上清掃



海浜清掃



地域住民も参加

②未来にきれいな海を残すために、今、わたしたちができること

今年度の新たな取り組みとして、春と秋の2回にわたり「オンラインワークショップ」を企画。参加者の海洋ごみへの理解や関心を深め、一過性の清掃活動で終わることなく、海洋ごみ削減に向け一人一人ができる取り組みを実践することで、各自の行動変容につなげることを主眼として、北海道から沖縄まで15カ所の海洋センター・クラブが参加した。

春のワークショップでは、東京大学教授道田豊氏の協力のもと、「海の流れが運ぶもの」をテーマに、各地で当日回収した海ごみの種類や量などの報告。外国語ラベルのペットボトルやビニール袋など、思いがけない地域からごみが漂着することを知り、海流やプラスチックごみについて理解を深めた。

秋のワークショップは、水中ゴミ拾い専門店Dr.blueの代表東真七水氏の協力を得て、水中ごみの現状とごみ拾いを「自分ごと化」することの重要性について講義を実施。漂着ごみのランキングや、実際の写真から海底に隠れて沈んでいる空き缶やペットボトルを見つけるクイズなどを行った。オンライン投票機能を使って他のグループの回答状況を確認しながら、海洋ごみについて楽しく学んだ。

=春のオンラインワークショッププログラム=

1. 海浜清掃 13:00~13:50

ワークショップ開始前に各海洋センターで海岸清掃を行い、拾ったごみの記録表を作成した。



海岸清掃



魚の死がいも発見



拾ったごみの記録表を作成

2. 海洋ごみ回収結果報告 14:00~14:35

オンラインワークショップ開始後、当日の海岸清掃で回収したごみについて、①回収した場所、②特徴的なごみ、③回収したごみの量などを海洋センターごとに発表。発表後、道田教授が回収した海洋ごみの地域性について解説した。



オンラインワークショップ



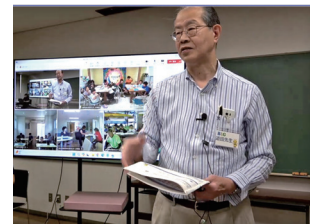
回収した海洋ごみを発表



海洋ごみの地域性についてコメントする道田教授

3. 講義「海の流が運ぶもの」 14:45~15:40

ワークショップ後半は道田教授による講義を実施。千葉県銚子市から鹿児島県喜界島まで16年かけて海流瓶（海流の方向・経路・速度など知るため、海中に投入する瓶）が流れ着いたエピソードを交えながら、海流や海洋プラスチックについて詳しく説明を行った。



道田教授による講義

(4) 海洋ごみ専用ごみ箱「B&G拾い箱」の設置

(海と日本PROJECT 日本財団助成事業)

海洋ごみ削減に向け、一時的な海岸清掃にとどまらず、地域住民をはじめ海を訪れた誰もがいつでも漂着ごみを回収できる環境を整えることを狙いとした、漂着ごみ専用ごみ箱「B&G拾い箱」の設置を推進している。

事業開始年度 2021年度（4年目）

目的 海洋ごみ削減に向けた意識啓発だけでなく、地域住民をはじめ海を訪れた行楽客などをはじめ、誰もがいつでも漂着ごみを回収できる環境を整備する。

目標 ・設置目標：5自治体
・年間での清掃活動等参加者数：1,000人／自治体

- 実績**
- ・設置自治体数：5自治体
 - ・年間での清掃活動等参加者数：7,986人（5自治体合計）

【お披露目式の様子と年間参加者数】

No.	道府県	市町村名／クラブ名	設置数	お披露目会実施日	年間参加者数
1	静岡県	磐田市	1	2024年11月3日(日)	1,448人
2	香川県	池田海洋クラブ（小豆島町）	2	2024年6月2日(日)	2,002人
3	徳島県	美波町	1	2023年8月6日(木)	1,007人
4	愛媛県	今治市	4	2024年9月29日(日)	1,200人
5	大分県	杵築市	1	2024年7月2日(火)	2,329人

【磐田市】

地元出身の絵本作家がデザインした拾い箱。お披露目式には地元企業やボランティアなども含め、約150人が出席。式典後は参加者全員でビーチクリーンを行った。



【池田海洋クラブ（小豆島町）】

地元の小学生も協力して拾い箱を製作。お披露目式終了後は、海岸清掃のみならず、小豆島海上保安署の協力のもと、カヌー・SUP・カッターボートなども使用し、海上清掃活動を行った。



【美波町】

由岐小学校の児童が「ぼくたち 私たちの海」をテーマに描いた絵を、絵画展風に展示した拾い箱。児童たちは「ウミガメも産卵にくるきれいな海岸線を守りたい」との想いを新たにしました。



【今治市】

市内の小学生にデザインを公募。「ありがとうごみ箱」のネーミングで4個を製作。ごみ箱を開けると「今日はごみを拾ってくれてありがとう！」と小学生の声で録音されたボイスメッセージが流れる仕掛けになっている。



【杵築市】

白砂青松100選に選ばれた奈多・狩宿海岸の景観にあわせたシックな拾い箱を製作。お披露目式には普段からこの海岸で清掃活動を行っている、豊洋小学校の児童たちも参加した。



(5) 体験格差解消事業の実施

子どもの頃の自然体験活動が、コミュニケーション能力や自尊心、規範意識向上のほか、学力にも良い影響があると言われるなか、家庭的・経済的な理由などにより、自然体験活動の参加機会が限られる子どもたちなどを対象に実施している。

① 寄付金等を活用した体験格差解消事業

目的 障がい児や児童養護施設の子どもたちなど、身体的・経済的な理由等により参加機会が限られる子どもたちへ自然体験活動を提供することにより、体験格差解消を目指す。

実績 寄付金、企業協賛、文部科学省補助金などを活用し、以下の3つの事業を実施し、合計100人（保護者・介助者等含む）が参加した。

(ア) 大成建設協賛「B&G海あそびFamily Day」

障がいのある子どもたちと保護者を対象としたマリンスポーツ体験会を、本事業の趣旨に賛同いただいた大成建設株式会社の寄付金により実施した。

期 日 2024年8月22日(木)

場 所 若洲ヨット訓練所（東京都江東区）

参加者 東京都内特別支援学校・放課後等デイサービスに通う障がい児等 34人（保護者・介助者含む）

内 容 SUP・メガSUP体験、ボート遊覧、水遊び

(イ) YAHOO!ネット募金「B&G海あそびFamily Day」

YAHOO!ネット募金を通じてB&G財団に寄せられた寄付金を活用して、障がいのある子どもたちと保護者を対象にマリンスポーツ体験会を実施した。

期 日 2024年8月23日(金)

場 所 若洲ヨット訓練所(東京都江東区)

参加者 東京都内特別支援学校に通う障がい児等 25人(保護者含む)

内 容 SUP・メガSUP体験、ボート遊覧、水遊び



車いすを降りて生まれて初めての海へ



ボート遊覧で爽快感を味わう



安定感のあるメガSUPを満喫

(ウ)「がんばろう能登半島! B&Gプールdeマリンスポーツ体験会」

能登半島地震により施設が被災し普段通りの生活が出来ずストレスを抱えていた子どもたちの支援や施設間交流を目的として、石川県内の児童養護施設の子どもたちを対象にマリンスポーツ体験会を開催。実施にあたっては、大成建設株式会社からの寄付金および文部科学省からの補助金等を活用した。

期 日 2024年11月4日(月・祝)

場 所 高岡市福岡B&G海洋センター(富山県高岡市)

参加者 石川県内の児童養護施設5カ所 41人(引率者含む)

内 容 【プール】SUP・メガSUP体験、水遊び(ウォーターホイール・水鉄砲・玉入れ等)

【体育館】昼食、交流レクリエーション、ユニバーサルスポーツ体験等



SUPを使ったゲームに挑戦



大人気だった水鉄砲合戦



シャフルボード等でも交流を深めた

②海洋センター・クラブでの体験格差解消事業

事業開始年度 2018年度(7年目)

目的 家庭的・身体的な理由等により、子どもの成長に欠かせない自然体験に参加することが困難な子どもたちが増えており、「体験格差」が社会課題となっている。障がい児や児童養護施設の子どもたちを対象に、海洋センターや海洋クラブを拠点に水辺の自然体験のきっかけとなる導入プログラムを実施することで、体験機会が少ない子どもたちの水辺への興味関心を引き出し、さらに自然体験活動を推進していくことを目的とする。

実績 64海洋センター・クラブで「体験格差解消事業」を381回実施し、6,176人が参加した。

5 指導者の養成と活用

(1) 海洋教育と地域の発展を担う人材の養成

海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動の提供および地域住民の健康づくり、地域コミュニティの活性化、地域社会への貢献や海洋センター施設の安全・安心な管理運営など、地域に対し多様かつ価値ある事業を提供し続けるため、B&G財団では、地域の発展を担うB&G海洋性レクリエーション指導員の一つであるセンター・インストラクターの養成を推進している。

また、指導員の資質向上を図る目的で、「B&G指導員研修会」を開催し、基調講演や研修講義など、最新の知識や技術などを学ぶ機会を提供している。

※センター・インストラクター養成研修は環境省の「環境教育等促進法」に基づく人材認定事業に登録されている。

①センター・インストラクターの養成（日本財団助成事業）

海洋センター・クラブ等において、海洋性レクリエーション等の実践指導ならびに施設の効率的運営等の業務に携わり、その業務を通して、青少年の育成および地域住民の健康増進と地域コミュニティの活性化に努め、海への理解促進、地域の発展に寄与する「海洋性レクリエーション指導員」資格の一つであるセンター・インストラクターを養成する。

事業開始年度 1976年度（49年目）

目的 海洋センター・クラブにおいて、マリンスポーツや水泳の指導、水辺の安全教室の実施、施設の管理・運営等に携わり、青少年の健全育成をはじめとした地域住民の健康づくりの推進と地域コミュニティの活性化を担う指導員を養成する。

目標 センター・インストラクター養成数 80人

実績

○第9回CE養成研修

日程：6月2日(日)～7月4日(木)

開催場所：沖縄県本部町
マリンピアザオキナワ

修了人数：46人

○第10回CE養成研修

日程：9月13日(金)～10月15日(火)

開催場所：鹿児島県天城町
天城町B&G海洋センター

修了人数：25人



水辺の安全教育実習



日朝点呼



心肺蘇生法講習

研修内容

海洋性レクリエーションと水泳に関する総合的な知識・技術および安全管理に重点を置いた実技・座学研修
B&G財団概要、海洋性レクリエーション理論・実技、水泳理論・実技、安全管理、心肺蘇生法、施設の管理
運営、指導実習、障がい者スポーツ実習、水辺の安全教室指導法、海の環境学習、自然体験を通じた郷土教育
他、B&G財団が推進する各種事業等

研修では、カヌー・SUP・水泳などの海洋性レクリエーション実技と各種指導法、心肺蘇生法やAED講習
のほか、水辺の安全教育プログラム、障がい者スポーツ実習による障がい者の理解促進など、180時間以上の
カリキュラムを履修。自然体験・環境教育を通じた青少年の健全育成や地域住民の健康づくりをはじめ、地域
の活性化、地域の発展を担う指導員を養成した。



水泳実習



SUP 実技



障がい者スポーツ実習



カヌー実技



ヨット実技

これまでの指導者養成数

指導員種別	センター・ インストラクター	インストラクター	リーダー	合計
人数	4,251人	733人	17,911	22,895人

②大学等と連携した人材育成

大学等の教育機関と連携し、学生を対象に海洋性レクリエーション指導員資格の一つである「リーダー」の
養成カリキュラムをはじめ、水辺の安全教室、カヌー実技などを含む研修プログラムを実施。海洋センター等
が実施する、地域の子どもたちを対象とした安全学習の指導補助や各種イベント等へのボランティアとしての
参画を促進する。

事業開始年度 2017年度

目的 武蔵丘短期大学と所在地の埼玉県吉見町およびB&G財団が締結したスポーツの振興や人材の育成等
を目的とした地域連携協約に基づき、研修プログラムを受講した学生が吉見町で開催される水辺の安
全教室やカヌー体験会において、指導ボランティアとして参加することで、学生のキャリア形成と地
域の活性化を促進する。

実績 日 程：2024年7月13日(土)

場 所：武蔵丘短期大学 吉見キャンパス

参加者：武蔵丘短期大学、山村学園短期大学の学生 46人

内 容：B&G財団事業説明、水辺の安全教育・指導法、カヌー実技ほか

(2) B&G全国指導者会の活動促進（日本財団助成事業）

これまでに養成した22,000人を超える有能な人材である「B&G指導員」を有効に活用するため、現役指導員やOB・OG、ボランティアなどで構成される指導者組織「地域指導者会」を海洋センターに設置し、各地域での海洋センター・クラブ活動の継続・活性化を促進している。

さらに、全国のB&G指導員の力を結集させ、青少年の健全育成や地域の活性化、社会貢献などを推進する「全国指導者会」を組織し、正副会長およびブロック責任者の連携のもと、活動方針や活動目標を策定し、海洋センターの活動を側面的に支援する各種の取り組みを行っている。

事業開始年度 2007年度（18年目）

目的 地域指導者会の活動の活性化と指導者の資質向上を図るため、活動支援および各種指導員研修会を実施する。また、定期開催する正副会長会議及びブロック責任者会議を通じて、全国指導者会としての運営方針や活動目標、活動活性化に向けた対応策など策定し、全国の海洋センター、地域指導者会、指導員等の実践的な取り組みを推進する。

目標

- ・海洋性レクリエーション活動の年1回以上の実施、水辺の安全教室（実技）の年1回以上の実施
- ・海洋ごみ啓発および清掃活動の年1回以上の実施
- ・ブロック指導員研修会への年1回以上の参加
- ・「自然体験活動を通じた郷土教育」の推進、「食品ロス削減活動」への協力

実績

- ・海洋性レクリエーション活動：実施センター数361カ所（実施率82.2%）
- ・水辺の安全教室（実技）：実施センター数410カ所（実施率93.4%）
- ・海洋ごみ啓発および清掃活動：実施センター数411カ所（実施率93.6%）
- ・ブロック指導員研修会：参加センター数433カ所（参加率94.7%）
- ・自然体験活動を通じた郷土教育：実施センター数391カ所（実施率89.1%）
- ・食品ロス削減活動・啓発活動への取り組み：実施センター数203カ所（実施率46.2%）



2010年1月16日に全国指導者会設立



2019年、全ての海洋センターに地域指導者会が設置完了した

B&G全国指導者会 組織体制

○執行部

役職	道府県	センター	氏名
会長	青森県	南部町名川	工藤 祐直
副会長	静岡県	牧之原市相良	曾根 由多
副会長	熊本県	湯前町	工藤 陽平
副会長	東京都	B&G財団	中島 博臣

○アドバイザー

	道府県	センター	氏名
東日本	埼玉県	久喜市栗橋	川島 正光
西日本	徳島県	阿南市	金久 博

○ブロック責任者

ブロック	道府県	センター	氏名
北海道	北海道	大空町女満別	長尾 美和
東北	福島県	小野町	清野 昭雄
関東	群馬県	みなかみ町新治	林 登紀枝
北陸	福井県	大野市	飯田 史哉
中部	静岡県	掛川市大東	増田 一樹

ブロック	道府県	センター	氏名
近畿	兵庫県	南あわじ市南淡	前谷 光宣
中国	島根県	浜田市三隅	阿瀬川文輝
四国	香川県	池田海洋クラブ	佐倉 亮
北九州	大分県	中津市耶馬溪	中村 大悟
南九州	熊本県	南阿蘇村白水	笠 健

B&G全国指導者会 ビジョン・基本方針・活動目標 (2023年度～2025年度)

ビジョン 未来を担う子どもたちのために 地域にとどけよう 笑顔と元気

基本方針

1. 地域指導者会の充実と会員の資質向上

- ・高齢者をはじめ地域住民を対象とした「リーダー研修」の開催など、新規会員の獲得に努めるとともに、他の地域指導者会と連携協力し、指導者会活動と組織の充実を図る。
- ・ブロック別指導員研修会の参加、地域指導者会で研修会実施、普通救命講習への参加など、指導者の資質の向上と自己研鑽に努める。

2. 海洋センター・クラブを拠点とした地域の活性化

(1) 自然体験活動の実践

- ・子どもたちや地域住民への海洋性レクリエーションや地域の自然環境などの特性を生かした様々な自然体験活動を行うとともにインクルーシブな体験活動を実践していく。

(2) 次代を見据えた地域貢献活動の実践

- ・海洋ごみの削減や食品ロスの解消に向けた取り組み、地域の課題に貢献する活動を積極的に推進する。

3. 活動の情報発信

- ・地域指導者会の活動情報を紙媒体やSNS等を活用して発信し、地域住民に周知を図る。

4. 災害時等における相互支援

- ・自然災害等により海洋センター所在市町村が被災した際は、可能な範囲で被災地域の復興に対する応援協力を行う。

①全国指導者会「正副会長会議」の開催

全国指導者会「正副会長会議」を2回開催し、3カ年の活動目標（2023年度～2025年度）の現時点での進捗確認や課題の共有を行うとともに、今期の目標達成に向けて具体的な成果目標を設定した。また、2026年2月開催予定の「第6回総会」を踏まえたスケジュール確認や、次期活動方針や重点目標に関する協議を行い、次年度の活動計画・予算を決定した。

	開催日・開催場所	議題・審議事項等
第1回	2024年11月26日 (兵庫県南あわじ市)	<ul style="list-style-type: none"> ▶2024年度事業進捗報告 ▶3カ年目標の達成に向けた課題解決と成果設定 ▶第6回全国指導者会総会計画案 ▶次期ブロック責任者候補の選定
第2回	2025年3月24日 (宮城県仙台市)	<ul style="list-style-type: none"> ▶2024年度事業報告・予算執行状況確認 ▶2025年度事業計画・予算書の策定 ▶重点目標達成に向けた2025年度取り組みの確認 ▶次期重点目標の素案検討

②全国指導者会「ブロック責任者会議」の開催

全国指導者会の正副会長と全国10ブロックの責任者による会議を開催した。

会議では、3カ年の活動目標（2023年度～2025年度）の現時点での進捗状況の確認や課題の共有を行うとともに、目標達成に向けた海洋センター・地域指導者会に対する具体的な活動方法、2025年度からの新たなブロック責任者の選任等について協議を行った。

期 日	2024年11月27日
場 所	兵庫県南あわじ市
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ▶2024年度事業進捗報告 ▶3カ年目標における2025年度（最終年度）の成果設定 ▶重点事業「自然体験活動を通じた郷土教育」の推進と定着方法 ▶第6回全国指導者会総会（2025年度開催）概要および実施内容の共有 ▶次期ブロック責任者の選任
参加者	全国指導者会 正副会長 4人 ブロック責任者10人（うち1名はオンライン出席） B&G財団役員・事務局 4人 合計18人



ブロック責任者会議



全国指導者会 工藤会長（青森県南部町長）

③「ブロック指導員研修会」の開催

指導員の資質向上を図るとともに、新たな活動目標である「自然体験活動を通じた郷土教育」の質的充実や、全海洋センターにおける共通理解の促進を目的として、動画講義とグループワークを中心とした統一プログラムによる研修会を全国10ブロックで開催した。

ブロック	開催日	主管自治体	会場
北海道	10/1~2	北海道砂川市	北海道芦別市
東北	5/21	秋田県湯沢市	福島県いわき市
関東	7/7	千葉県長南町	埼玉県松伏町
北陸	5/24	富山県氷見市	新潟県上越市
中部	5/14	静岡県磐田市	愛知県名古屋市
近畿	5/29	和歌山県紀の川市	和歌山県紀の川市
中国	5/17	島根県美郷町	島根県美郷町
四国	5/10	愛媛県西条市	愛媛県松山市
北九州	5/17	長崎県杵岐市	長崎県杵岐市
南九州	5/11	熊本県津奈木町	熊本県熊本市



ワークシートを通じて
活発に意見を交換した

④地域指導者会の活性化支援

(ア) リーダー研修の開催による新たな指導者会会員とボランティアの養成

各地の海洋センターにおいて、地域指導者会の活動継続・活性化のために欠かせない新たな指導員の養成を行った。

年度	2024年度	2023年度
新規登録者数	470人	487人

(イ) 10ブロックに配備した大型SUPの活用

全国10ブロックに2艇ずつ配備した大型SUP器材について、各ブロック内の海洋センターにおいて積極的に活用され、事業数・参加者数とも増加し、活動が活発化した。

年度	2024年度	2023年度
活用事業数	173事業	190事業
活用事業への参加者数	8,379人	7,198人



大型 SUP でのツーリング



大型 SUP を使用したレクリエーション

(ウ) 地域指導者会と連携した学生等ボランティアの養成

より安全で活発な活動を子どもたちに提供するとともに、地域の多様な人材にボランティアや指導の機会を提供し、自治体や海洋センター事業、ならびに地域指導者会の人材育成を充実させることを目的に、学生などを対象としたボランティア養成を実施した。

研修終了後は、海洋センターや自治体が主催する各種イベントや教室、社会教育事業への参画の場を提供し、学生にとっては貴重な実践経験の場になるとともに、中高年世代にとっては居場所づくりとなり、地域の活性化を促進した。

対象：海洋センター・クラブ近隣の大学生、高校生、専門学校生
中高年・シニア世代・教員などの地域住民等

実施センター数：69海洋センター

参加者：1,053人

研修内容：海洋性レクリエーション実技、安全管理の指導法、器材管理等

(エ) 「B&G指導員研修会」の開催

全国のB&G指導員等を対象に、安全管理や指導方法に関する最新の知識や技能を習得することで、指導者としての資質向上を目的に毎年実施している。

事業開始年度 2004年度～

目的 海洋センター・クラブの指導者・担当者等を対象に指導技術や安全管理等の知識を提供する研修会を開催し、指導員の資質向上を図る。

目標 B&G指導員の資質向上を図るとともに、参加者のニーズに応じた講演やプログラムを展開し、より高い満足度の研修実施を目指す。参加者250人を目標とする。



イイノホールにて実施



参加者の様子

実績 「地域の未来をつくるB&G指導員の役割 ～安全管理と地域連携の視点から～」をテーマに、アルピニスト・野口健氏による基調講演ほか、子どもへの暴力・虐待防止や水難事故防止に関する講義を実施。また、全国から集まった指導員同士が交流プログラムを通じて、世代や地域を越えて積極的に意見交換を行い、つながりを深めた。

日時：2025年2月13日(木)・14日(金)

場所：イイノホール&カンファレンスセンター

参加者：310人 (242自治体)

テーマ：「地域の未来をつくるB&G指導員の役割 ～安全管理と地域連携の視点から～」



世界最高峰に挑む
～アルピニスト流 極限状況での安全管理～
アルピニスト 野口 健氏



会場の様子



水難事故防止を目指して～河川における水難メカニズムと予防策～
大阪大学大学院人間科学研究科
安全行動学研究分野 特任研究員
岡 真裕美氏



障がい児への運動指導の知識と
インクルーシブな体験活動の実践
一般社団法人 MOTTO 代表理事
斎藤 義久氏

■研修内容

	所属	氏名	講義内容
共通科目	アルピニスト	野口 健氏	世界最高峰に挑む ～アルピニスト流 極限状況での安全管理～
	児童精神科医／こども家庭庁アドバイザー 一般社団法人Everybeing 共同代表	小澤 いぶき氏	「子どもの権利」とセーフガーディング
	公益財団法人河川財団 子どもの水辺サポートセンター 主任研究員 大阪大学大学院人間科学研究科 安全行動学研究分野 特任研究員	菅原 一成氏 岡 真裕美氏	水難事故防止を目指して ～河川における水難メカニズムと予防策～
選択科目	一般社団法人MOTTO 代表理事	斎藤 義久氏	障がい児への運動指導の知識とインクルーシブな体験活動の実践
	中央大学研究開発機構 機構教授 公益財団法人日本ライフセービング協会 救助救命本部長	石川 仁憲氏	水難事故の現況と先端技術を活用した海辺・水辺の安全管理
	公益財団法人 身体教育医学研究所 指導主任	谷 貴人氏	地域に溶け込むコミュニケーション ～体験活動を通じた地元社会との連携～
	STS Inc.代表取締役 総務省地域力創造アドバイザー	高瀬 直史氏	人との出会いで地域が変わる ～外部人材との協働～

■全国指導者会からのお願い

最後に、B&G全国指導者会副会長の工藤陽平氏が全国指導者会のビジョン、基本方針、活動目標などについて説明を行い、研修参加の指導者に協力を求めた。



工藤陽平副会長による全国指導者会からの依頼事項

6 B&G全国会議の開催

B&G財団と自治体および自治体間のネットワークを強化し、地域活性化、青少年の健全育成を図ることを目的に、全国の海洋センター所在自治体の首長や教育長をはじめ、関係者を対象とした各種会議を開催している。

(1) B&G全国会議等による連携強化（日本財団助成事業）

①B&G全国サミット

少子高齢化や人口減少、公共施設の統廃合など、自治体が直面するさまざまな社会課題をテーマに、基調講演や先進事例の紹介を通じて情報を共有し、意見交換を行うことで、さらなる連携強化を図る。

事業開始年度 2003年度（20年目）

目的 全国の海洋センター所在自治体の首長を対象とした会議を開催することで、B&G財団と自治体、さらに自治体同士の情報共有とネットワークを強化し、共同宣言の推進を目的としている。

目標 各種事業の理解促進のため、欠席自治体を減少させ、さらなるネットワークの強化を図る。

実績 第17回「B&G全国サミット」をベルサール東京汐留（東京都中央区）で2025年1月22日（水）に開催。全国45道府県から首長273人、副首長24人、教育長196人が出席。19自治体が欠席となった。（昨年度欠席自治体：49）

第17回「B&G全国サミット」概要

日時 2025年1月22日（水）

場所 ベルサール東京日本橋（東京中央区）

参加者数 767人

テーマ 「ミクロとマクロでみる公共施設の在り方」

今回は「ミクロとマクロでみる公共施設の在り方」をテーマに、日本財団・笹川陽平会長による基調講演のほか、障がい者に配慮した施設整備や、町の総合計画に基づく拠点づくりに関する事例発表を通じて、地域における公共施設の活用方法とその可能性について共有を図った。

また、教育長会議からの提言や被災地支援に関する報告、優良センターの表彰を通じて、地域での実践や工夫を共有する貴重な場となった。最後に、「誰もが『利用できる』から『利用したくなる』施設づくり」を目指す共同宣言が全会一致で採択され、閉会となった。

参加者内訳

海洋センター関係	首長	273人
	副首長	24人
	教育長	196人
	代理等	261人
来賓	来賓	9人
報道関係者	報道関係	4人
合計		767人



会議の様子

会議内容

内容	講演者
【第一部】 1. 主催者挨拶 2. インタロダクション 3. 特別基調講演「日本の将来は危ないか？」	B&G財団 会長 前田 康吉 青森県平川市 教育長 須々田 孝聖 様 ほか 日本財団 会長 笹川 陽平 様
【第二部】 4. 修繕助成制度を活用した事例発表 ①ミクロ視点 宮城県加美町 ②マクロ視点 北海道大樹町 5. 全国指導者会からのお知らせ 6. 第21回B&G全国教育長会議 報告 7. B&GフレンドシップPROJECT 中間報告 8. 来年度の助成事業について	宮城県加美町 町長 石山 敬貴 様 北海道大樹町 町長 黒川 豊 様 青森県南部町 町長 工藤 祐直 様 兵庫県養父市 教育長 米田 規子 様 B&G財団 常務理事 朝日田 智昭 石川県穴水町 教育長 大間 順子 様
【第三部】 8. 優良海洋センターアワード 9. B&G全国サミット共同宣言	

B&G全国サミット正副会長

「B&G全国サミット」会議規則により、昨年に引き続き、福井県大野市長 石山 志保 会長、熊本県南関町長 佐藤 安彦 副会長、長野県白馬村長 丸山 俊郎 副会長が議事を進行した。（任期：2024年度～2026年度開催の全国サミット前日まで）

B&G全国サミット 共同宣言

石山会長が共同宣言について説明を行い、新たに『誰もが「利用できる」から「利用したくなる」施設づくり』が採択された。



共同宣言

第17回「B&G全国サミット」共同宣言

『誰もが「利用できる」から「利用したくなる」施設づくり』

海洋センターを取り巻く地域社会のニーズを汲み取り、付加価値をつけることで、より魅力的な施設にアップデートしよう。

②B&G全国教育長会議

海洋センターを有する自治体の教育長が一堂に会し、教育行政が直面しているさまざまな今日的課題について意見交換を行うとともに、B&G財団が展開する各種事業の活用方法について提案・検討し、課題の解決を図る。

事業開始年度 2002年度（23年目）

目的 海洋センターを所管し、教育現場のリーダーである教育長が集い、現場が直面する多様な課題について意見を交わす場を提供するとともに、テーマに基づく講演や各自自治体の先進的な取り組み事例の共有を通じて、課題の解決を図る。

目標 全てのブロック・道府県連絡協議会から教育長の100%出席を目指すとともに、B&G財団の事業を課題解決の一つの手段として紹介し、B&G財団および海洋センターへの理解を深めてもらうことで、さらなるネットワークの強化を図る。

第21回「B&G全国教育長会議」概要

日時 2024年11月22日(金)

場所 イノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）

参加者数 308人（うち教育長本人出席222人）※過去最多

テーマ 「部活動の地域“移行”から“展開”へ！指導者の確保は課題解決につながるのか？」

昨年度に好評を博した「部活動の地域移行」を引き続きテーマとし、今回は特に「指導者の確保」に焦点をあてて実施した。基調講演や先進的な取り組みの事例発表を通じて、指導者像の見直しや課題解決に向けた先進事例の共有を行った。また、会議の中ではコーヒブレイクの時間を設け、教育長同士が自由に意見交換できる機会を設けることで、参加者間の交流と情報交換を促進した。そのほか、B&G財団の事業説明に加え、能登半島地震の被災地支援に関する取り組みについても報告。会議の最後には、全国教育長会議として新たに「多様な活動ができる環境の整備」を提言に加えることを全会一致で確認し、閉会となった。



会場の様子



コーヒブレイクの様子

会議内容

内容	登壇者・講演者
1. 主催者挨拶 2. 来賓挨拶・紹介 3. 正副会長選任・挨拶 4. 「部活動地域移行に関する現状調査（第2弾）」結果報告	B&G財団 会長 前田 康吉
5. 基調講演 「地域部活動の新しい形の創出 ～『学校部活動』を新たな『地域コミュニティ活動』へ～」 6. 事例発表① 「休日部活動の地域展開に向けた佐渡市の取組」 7. 事例発表② 「海洋クラブの活動と部活動における取組について」 8. スポーツ庁からの説明 「部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けた環境の整備」 9. コーヒーブレイク 10. B&G財団事業説明 11. 能登半島地震被災地支援事業報告 12. B&G全国教育長会議「提言」 13. 総括	一般社団法人 未来地図 代表理事 代田 昭久 様 新潟県佐渡市 教育長 香遠 正浩 様 B&G海クラブ伊豆海洋クラブ 代表 酒井 厚志 様 スポーツ庁 地域スポーツ課 課長補佐 竹河 信裕 様 B&G財団 常務理事 朝日田 智昭

正副会長の選任

全国教育長会議会長の正副会長の選任が行われ、会長に兵庫県養父市 米田 規子 教育長、副会長に福島県 塙町 秦 公男 教育長、高知県四万十町 山脇 光章 教育長が全会一致で承認された。

第21回「B&G全国教育長会議」提言

- 一. 「多様な活動ができる環境の整備」
 ～子どもたちが将来にわたり多様なスポーツや文化活動に親しめる環境を創り、地域活性化につなげよう～



新たな提言を全会一致で承認

(2) 「海洋センターブロック連絡協議会」の活性化に向けた会議の開催 (日本財団助成事業)

①ブロック連絡協議会総会

海洋センターブロック連絡協議会および道府県連絡協議会の活動を促進するため、全国10のブロック連絡協議会が主催する「総会」に出席し、B&G財団事業の周知ならびにブロック内の連携強化を図っている。

事業開始年度 2007年度（18年目）

目的 各ブロック連絡協議会が主催する「総会」に役職員が出席し、B&G財団事業の周知とともに、ブロック内における連携の強化を図る。あわせて、首長をはじめとする自治体執行部の参加を促すことで、各種事業に対する理解を一層深めていただくことを目的とする。

- 目標** ・全国10ブロック連絡協議会総会への出席者数向上
 ・100%出席 4 ブロック以上
- 実績** ・全10ブロック連絡協議会総会出席者数：921人（2023年度：878人）
 ・100%出席ブロック 3 ブロック（2023年度：4 ブロック）

No.	ブロック	開催地	開催日時	出席センター・クラブ数および人数
1	北海道	北海道砂川市	4月11日	35海洋センター 96人（含：首長21人、副首長8人、教育長13人）
2	東北	福島県いわき市	5月21日	59海洋センター 108人（含：首長12人、副首長3人、教育長7人）
3	関東	東京都港区	5月8日	39海洋センター 92人（含：首長20人、副首長8人、教育長15人）
4	北陸	新潟県上越市	5月23日	38海洋センター 67人（含：首長3人、副首長0人、教育長11人）
5	中部	愛知県名古屋	5月14日	69海洋センター 128人（含：首長13人、副首長7人、教育長15人）
6	近畿	和歌山県紀の川市	5月29日	43海洋センター 87人（含：首長4人、副首長2人、教育長11人）
7	中国	島根県美郷町	5月16日	53海洋センター 85人（含：首長5人、副首長3人、教育長9人）
8	四国	愛媛県松山市	5月9日	28海洋センター 87人（含：首長18人、副首長1人、教育長7人）
9	北九州	長崎県壱岐市	5月17日	39海洋センター 80人（含：首長7人、副首長3人、教育長5人）
10	南九州	熊本県熊本市	5月10日	32海洋センター 91人（含：首長14人、副首長1人、教育長8人）
合計				435海洋センター 921人（含：首長117人、副首長36人、教育長101人）

次第

- 主催者挨拶 ブロック連絡協議会 会長
- 来賓挨拶 B&G財団 役員
- 議事(例)
 - 議案第1号 2023年度事業報告について
 - 議案第2号 2023年度決算報告について
【監査報告・ブロック内活動事例報告】
 - 議案第3号 2024年度事業計画(案)について
 - 議案第4号 2024年度予算(案)について
- B&G全国指導者会の活動について
- 分科会(首長・副首長・教育長対象)
2024年度B&G財団事業説明
- 優良海洋センター表彰
 - 利用者状況表彰
(利用者人数施設別ベスト3)
(利用者人口比率施設別ベスト3)
 - BG塾
 - 海ごみゼロフェスティバル

総会では、各ブロック内の優良な海洋センターを対象に、「施設別利用者数」「人口比率による施設別利用者数」「BG塾」「海ごみゼロフェスティバル」の各部門において表彰が行われた。



北九州ブロック総会

【2023年度 利用者人数ランキング】

順位	センター名	道府県名	利用者数	順位	センター名	道府県名	人口比率	利用者数
艇庫 (利用者人数)				艇庫 (人口比率)				
1	本部町	沖縄県	74,066	1	本部町	沖縄県	569.65%	74,066
2	阿南市那賀川	徳島県	28,349	2	美郷町邑智	島根県	106.63%	4,502
3	滝川市	北海道	14,323	3	与論町	鹿児島県	60.00%	3,047
温水・加温プール (利用者人数)				温水・加温プール (人口比率)				
1	芦屋市	兵庫県	105,399	1	芳賀町	栃木県	511.27%	79,498
2	坂井市丸岡	福井県	94,716	2	明和町	群馬県	447.30%	48,644
3	白山市鶴来	石川県	81,873	3	海陽町海南	徳島県	364.80%	31,537
上屋付・屋外プール (利用者人数)				上屋付・屋外プール (人口比率)				
1	磐田市竜洋	静岡県	22,259	1	湯前町	熊本県	203.69%	7,349
2	堺市美原	大阪府	12,843	2	生坂村	長野県	203.24%	3,451
3	徳島市	徳島県	10,097	3	富加町	岐阜県	164.05%	9,449
体育館 (利用者人数)				体育館 (人口比率)				
1	上郡町	兵庫県	98,964	1	上郡町	兵庫県	702.37%	98,964
2	徳島市	徳島県	83,254	2	東川町	北海道	533.71%	45,904
3	高松市国分寺	香川県	64,877	3	生坂村	長野県	515.37%	8,751

2024年度「ブロック連絡協議会」幹事センターおよび会長

No.	ブロック名	海洋センター名	会長名
1	北海道	北海道 砂川市	市長 飯澤 明彦
2	東北	秋田県 湯沢市	市長 佐藤 一夫
3	関東	千葉県 長南町	町長 平野 貞夫
4	北陸	富山県 氷見市	市長 林 正之
5	中部	静岡県 磐田市	市長 草地 博昭
6	近畿	和歌山県 紀の川市	市長 岸本 建
7	中国	島根県 美郷町	町長 嘉戸 隆
8	四国	愛媛県 西条市	市長 玉井 敏久
9	北九州	長崎県 壱岐市	市長 篠原 一生
10	南九州	熊本県 津奈木町	町長 山田 豊隆

(3) 自治体職員のB&G財団への派遣研修

海洋センター所在自治体から自治体職員を1年間受け入れ、各種事業への参画や研修への参加を通じて、B&G財団への理解を深めるとともに、自治体との相互協力体制の強化を図った。

事業開始年度 2003年 (22年目)

目的 B&G財団での業務に加え、全国各地で実施される事業の運営や新規事業の企画など、地方行政とは異なる業務に携わることで、視野を広げ、将来的に海洋センターの運営を担う人材としての資質向上を図る。

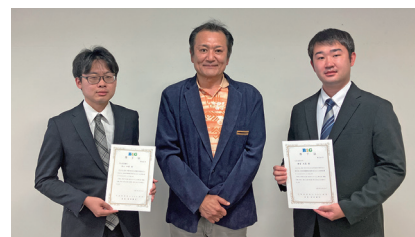
また、派遣元の自治体との密接なパートナーシップを築くとともに、全国の海洋センターを訪問して事業視察や情報交換を行うことで、センター間のネットワークを強化し、地元の海洋センターのさらなる活性化を図る。

実績 これまでに65人の派遣職員を受け入れた。

2024年度 自治体派遣研修生参加者

(敬称略)

氏名	自治体名	期間
廣富 光晟	北海道愛別町	2024年4月1日～ 2025年3月31日
香山 和寛	岡山県奈義町	



香山さん(左)、菅原理事長(中央)、廣富さん(右)



7 調査研究等の活動

新規事業開発や自治体執行部への財団理解度向上等を目的として、2007年度に「地域海洋センター等調査研究事業」を立ち上げた。現在までに、水辺の安全教室やアントレ教育プログラムなどの新規事業を立ち上げるとともに、「活動実績報告書」を作成し、各事業のデータの取りまとめや検証を行っている。

また、職員による新規事業提案会を行うとともに、自治体や海洋センターと協働し、新規事業開発を目的としたアンケートやパイロット実施などの調査研究を行っている。

(1) 事業成果の検証

2023年度の事業実績、海洋センター・海洋クラブの運営・活動状況分析などを「活動実績報告書」として取りまとめ、公式ホームページにて公開し各種事業に対する理解促進を図った。



(2) 時代に即した新たな事業の創出に関する調査

新規事業開発を目的に各種アンケート調査を行うとともに、海ごみゼロフェスティバルの新たな事業展開の創出を目的として、リモネンを使った発泡スチロール系海ごみの減容化実験を行っている周防大島町の取り組みを調査した。

(3) 先進的海洋センターの整備に関する調査（日本財団助成事業）

先進的海洋センターは、従来の海洋センターを大胆に進化させた複合型施設であり、「海興し」の拠点として、海への関心を高める多様なプログラムを展開し海離れの解消を目指す。本事業の実施にあたり、2024年度は自治体からの企画提案をもとに、書類審査や現地調査などを経て、内示を行った。

事業開始年度 2021年度（4年目）

目的 これまでの海洋センターを大胆に変えた「フロントライン」と呼ばれる複合型先進海洋センターを新たに整備し、海離れを解消すること。

実績 2021年度 企画提案募集開始① 募集期間：2022年3月10日(木)～7月12日(火)
1次審査、2次審査を経て、当該年度採択無し
2022年度 企画提案募集開始② 募集期間：2023年3月15日(水)～10月3日(火)
2023年度 1次審査、2次審査、内部プレゼン実施
2024年度 南島原市と継続協議、内部再プレゼン、最終現地確認、内示

【南島原市の企画提案内容】

施設コンセプト 海+ “ウミダス” 誰もがいつでも海に会える場所

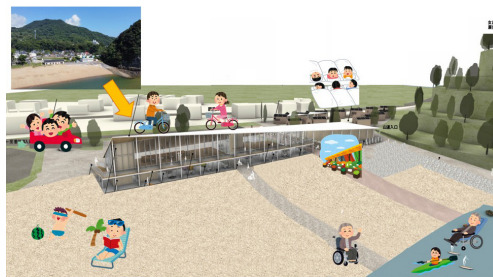
ハード整備内容

艇庫と体験交流棟を備えた複合施設と、バンガロー型宿泊棟を整備。

艇庫：倉庫、トイレ・シャワー、休憩スペース

体験交流棟：事務所、書庫・倉庫、更衣室、トイレ・シャワー、救護室、多目的室、研修室、会議室、休憩スペース、図書スペース、ギャラリー、海洋性プラスチック加工室など

宿泊棟：バンガロー型宿泊施設



ソフトプログラム内容

海難れによる海への関心低下や海洋人材の減少を解消し、海に関わる人を増やすことを目的に、下記事業を展開する。

①海洋教育プログラム

大学や企業と連携して海の新たな価値を探る探求学習プログラムを開発し、修学旅行での活用や、海洋プラスチックごみ加工室を使ったごみ削減ワークショップなどを実施する。

②人材育成プログラム

子どもから大人までを対象に、海洋環境や海との共生を学ぶプログラムを実施し、海に関わる人材の育成に取り組む。

③アートと海洋の共創事業

海に関するアートや南島原の銅版画などの展示など、ビーチアートイベントを開催する。

④地域活性化事業

先進的海洋センターを起点に多様なツーリズムを企画し、周辺地域への人の流れを生み出す事業を実施する。

⑤アクセス改善に向けた官民連携実証事業

民間と連携しシャトルバスの実証運行を行い、隣接自治体の観光地との相互誘客を図る。

⑥電子地域通貨との連携事業

南島原市のデジタル地域通貨を活用し、海洋保全活動や地域活性化事業への参加にポイントを付与し、貯まったポイントを海洋保全に寄付できる仕組みを構築する。



(4) 海洋センターサテライト拠点整備事業（日本財団助成事業）

現在、人口減少や少子化などの理由から、使用されていない公共施設の利活用が自治体の課題となっている。そのような現状を受け、自治体の管理する空き公共施設等を活用し海洋センター事業とその地域・地区の課題解決に資する事業を実施する拠点整備事業に取り組んでいる。2024年度は、地域における空き公共施設の現状を調査するとともに、地域課題の設定について日本財団と協議を行った。(継続中)

8 広報活動

B&G財団および全国の海洋センター・クラブの活動を広く周知するため、マスメディアを通じた広報活動とインターネットを活用した情報発信を行った。また、地域振興及び認知度向上を目的とした広報コンテストを開催した。

(1) 広報コンテスト「アナビバグランプリ2024」の開催

昨年度に引き続き、地域に埋もれた魅力的な子育てスポットなどを募集・発信することで、地域振興およびB&G財団の認知度向上を目的として実施。

「#アナビバグランプリ2024」のハッシュタグを付けたInstagram投稿や、Googleフォームからの応募作品を対象に、有識者による審査会を行い、各賞を決定した。

2024年6月1日(土)～2025年1月31日(金)間、作品を募集し、夏のアナビバ部門133点、冬のアナビバ部門97点の計230点の応募があった。

「アナビバグランプリ」審査委員会

日時 2025年3月13日(木)

場所 B&G財団会議室

内容

一次審査、二次審査を通過した、夏のアナビバ部門28件、冬のアナビバ部門25件を7人の審査委員により、本コンテストとの親和性や独自性、創造性などの観点で審査し、各部門の第1位、第2位、第3位を決定。また、審査委員会では、エントリーされた53作品の中から“親子で訪れてほしい”アナビバスポットとして10ヵ所を選出した。



広報コンテスト審査委員会

No.	役職	氏名	現職
1	委員長	岸 ユキ	画家・女優
2	委員	中江 有里	女優・脚本家・作家
3	委員	前木理一郎	読売新聞東京本社 専務取締役編集担当
4	委員	鈴木 顕	朝日新聞出版 AERA with Kids 編集長
5	委員	後藤真理恵	一般社団法人 SNSエキスパート協会 代表理事
6	委員	黒田有紀子	いこーよ お出かけコンシェルジュ
7	委員	こじま観光 (小島大輔)	プロダクション人カ舎所属 旅行芸人

夏のアナビバ部門第1位
「長崎県長崎市 炭鉱の島 池島」



冬のアナビバ部門第1位
「佐賀県唐津市 玄海中展望塔」



(2) その他広報活動・情報発信

① マスメディアによる広報

B&G財団事業および海洋センター・クラブの活動を広く社会へ周知するため、プレスリリースを169本発信し、新聞・テレビ等へのパブリシティ活動を行い、各種メディアで掲載された。

新聞	広報誌	テレビ
124紙496回	59誌168回	22局30回

② SNS等を活用した情報発信

日々の事業情報を発信することで、継続的な閲覧数の獲得につなげた。また、FacebookやInstagramなどの投稿のシェア・拡散を図り、指導者・自治体と連携した広報活動支援を行った。

媒体名	アクセス数
公式サイト	1,804,500
Facebook	23,459
Instagram	16,703

③ オリジナルグッズの制作・販売

夏季限定のオリジナルTシャツおよびハンドタオルを制作・販売し、ブランディング活動を行った。



(3) 子ども健全育成大使による活動

酒井法子氏が参加 宿泊型体験事業「ゆがっこキャンプ」を開催

日時 2024年11月3日(日・祝)～4日(月)

場所 富士河口湖町・西湖湖畔キャンプ場

参加者 子ども13人、保護者4人、拠点スタッフ8人

内容

「子ども第三の居場所」湯河原拠点の利用児童と保護者を対象に、宿泊型自然体験「ゆがっこキャンプ」を実施。B&G財団「子ども健全育成大使」を務める酒井法子氏が参加し、子どもたちとヨガや灯篭づくり、BBQ、キャンプファイヤーなどを楽しみながら交流。終始笑顔で接し、子どもたちの自主的な活動を温かく支援した。



灯篭づくりを手伝う酒井氏

9 能登半島地震復興支援活動 「B&GフレンドシップPROJECT 2024」

B&G財団は、能登半島地震の発災直後より「B&GフレンドシップPROJECT」を通じて支援活動を展開。全国の海洋センター所在自治体、企業、一般市民の皆さまから寄せられた寄付金や支援物資を活用し、幅広い層を対象とした復興支援を実施した。

特に、子どもや障がいのある子どもへの遊びや交流を通じた支援、高齢者を対象とした活動などを行い、被災地に暮らす人々の心身のケアと地域のつながりを取り戻す取り組みを進めた。

1. がんばろう能登半島！B&Gわくわく水上運動会for志賀

日時 2024年4月3日
場所 白山市鶴来B&G海洋センター（石川県）
対象 志賀町の小学生（1～6年生）43人
内容 志賀町の小学生に向けて、水上運動会を実施。SUPや水上トランポリン、室内での遊びを通して、心と体を元気づける時間を提供した。



2. 能登半島唯一の児童養護施設に飲料水を支援

日時 2024年5月29日、7月24日
場所 石川県穴水町「あすなろ学園」
対象 児童養護施設の子どもたち
内容 水道が未復旧で水不足が続く穴水町の児童養護施設へ、水や麦茶を届け、子どもたちの安心な生活環境を支える支援を行った。



3. がんばろう能登半島！B&Gプレイパークin穴水

日時 2024年7月6、7日
場所 石川県穴水中学校
対象 穴水町の乳幼児～小学生と保護者
内容 ボーネルンドや全国のB&G関係者の協力のもと、被災地の子どもたちに遊びと交流の機会を提供し、笑顔と笑い声に包まれた2日間となった。



4. 震災で犠牲になられた方々のご遺族へ新盆の支援

日時 2024年8月13日
対象 震災で家族を亡くした遺族 13世帯
内容 震災で亡くなられた犠牲者のご遺族に向けて新盆の支援を行い、和ろうそくや花などを贈り、中江有里氏のメッセージも添えられた。



5. がんばろう能登半島！志賀町商工祭 重機体験会

日時 2024年10月19日
場所 石川県志賀町文化ホール
対象 児童や保護者ほか
内容 ヤンマー建機の協力のもと、児童を対象とした油圧ショベル等の体験試乗会を行った。



6. がんばろう能登半島！「B&Gプールdeマリンスポーツ体験会」

日時 2024年11月4日
場所 高岡市福岡B&G海洋センター（富山県）
対象 石川県内の児童養護施設の子どもたち
内容 大成建設およびYahoo!ネット募金を通じて寄せられた寄付金を活用し、夏季に体験できなかったSUP、ウォーターロール、滑り台などの水上レクリエーション体験会を実施した。



7. B&Gフレンドショップの開設

日時 2024年12月7日
場所 石川県志賀町とぎ第8団地
対象 仮設住宅の高齢者など
内容 仮設住宅団地の高齢者世帯等を支援するため、食料品や日用品を販売する店舗を開設し、買い物の便宜を図るとともに、住民同士の交流の場を提供した。



8. 高齢者施設訪問ハンドケア事業

日時 2024年12月2日、7日、8日
場所 石川県穴水町3カ所の高齢者施設
対象 施設の職員と入居者
内容 穴水町の3カ所の高齢者施設で、福祉ネイリストによるハンドケアを行い、職員と入居者に癒しと笑顔の時間を提供した。



9. がんばろう能登半島！B&Gスポレクチャレンジフェスタ

日時 2024年12月14日、15日
場所 石川県穴水町B&G海洋センター
対象 障がい児とその家族、穴水町・志賀町の幼児から中学生および保護者
内容 障がい児やその家族を対象に、プロアスリートと触れ合えるレクリエーションやエア遊具などの体験型プログラムを実施。子どもたちは全力で遊び、笑顔を見せた。



10. 穴水町の障がい児を対象に「軽スポーツ教室」

日時 2024年12月13日
場所 石川県穴水町B&G海洋センター
対象 穴水町の放課後等デイサービスに通う障がい児
内容 障がい児が周囲を気にせずのびのびと体を動かせる軽スポーツ教室を開催し、安心して楽しめる時間を提供した。



今後も全国の海洋センター所在自治体や企業、一般の方々から寄せられた寄付金を被災地のために有効活用し、被災地の一日も早い復興を支援していく。

海洋センターの運営・活動状況

(1) 2024年度 海洋センターの活動状況

2024年度末の海洋センター所在自治体数は、209市・156町・13村で378自治体となり、海洋センター数は456カ所となった。海洋センター所在自治体の総人口は2,357万人となっている。

利用者人数の合計は923万人となり、前年度の896万人から27万人増加した。体育施設としてだけでなく、地域コミュニティの拠点として多様な利用促進が図られていることが数値の増加に表れたと考えられる。

(2) 海洋センター評価

本評価は、全国の海洋センターが統一した基準に基づき管理・運営面の現状を客観的に把握し、更なる活動の活性化を図るための指標とすること、また財団からの各種支援をその評価に応じて行うことにより、公正性を保つことを目的に実施している。海洋センター評価は、2003年度から導入しているもので、2007年度以降は評価基準とともにその結果を公表している。

特A評価の海洋センターは306カ所

2023年度の運営に基づく2024年度評価は、大項目として「指導員関係」「会議等への出席」「財団・連協事業」「センター運営関係」「特別加点」（各項目詳細は次頁以降に記載）の5つに大別し、特に注力する事業は「必須事業」に位置づけ評価を行った。

海洋センター評価は、当該年度（4月～3月）の活動状況を基に評価し、翌年度はじめに各海洋センターに公表する

●評価項目と配点

No.	評価項目	点数
1	指導員関係	上限15点
2	会議等への出席	上限20点
3	財団・連協事業への協力	上限30点
4	センター運営関係	上限30点
5	特別加点	上限5点

●合計点数に応じた評価と財団支援

評価	点数範囲（100点満点）	財団支援・指導等
特A	80点以上	修繕助成の対象となり、評価に応じた助成率が得られる。
A	60点～79点	その他、評価に応じた支援を行う
B	40点～59点	原則として、B評価以下は修繕助成の対象外となる。上位評価となるよう改善に向けた指導を行う
C	20点～39点	
D	0点～19点	運営指導を行う。改善が見られない場合は首長を含めた協議を行う
E	施設休止	首長を含めた協議を行う

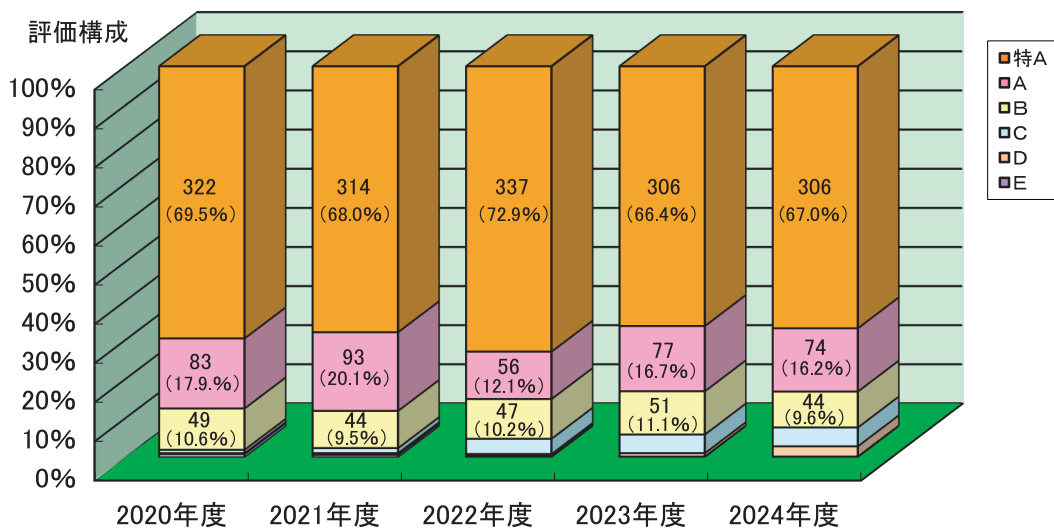
①2024年度海洋センター評価

評価別海洋センター数（前年度比較）

年度	評価区分	特A	A	B	C	D	E
2024年度	年間評価	306	74	44	20	12	1
	構成率	66.9%	16.2%	9.6%	4.4%	2.6%	0.2%
2023年度	年間評価	306	77	51	22	4	1
	構成率	66.4%	16.7%	11.1%	4.8%	0.9%	0.2%

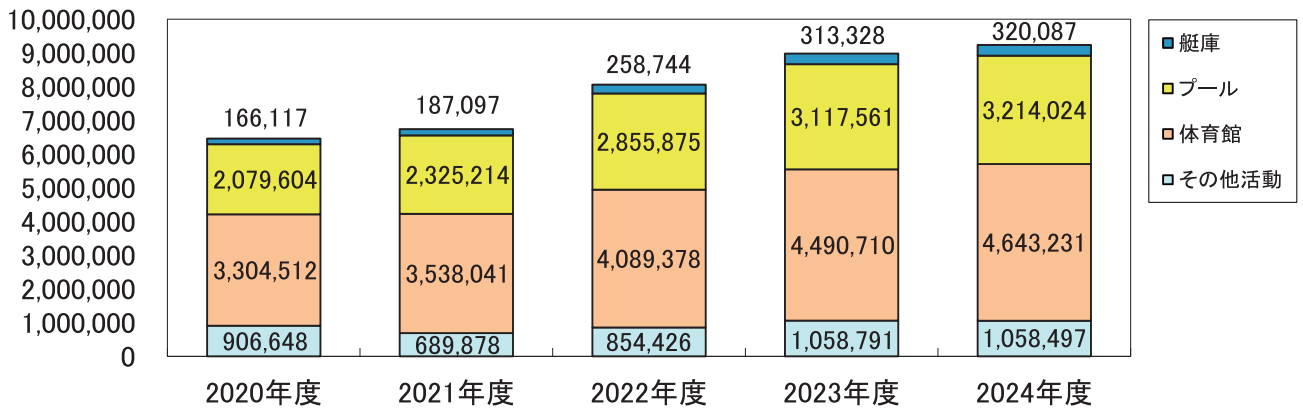
②海洋センター年間評価5カ年の推移

過去5年間の評価の推移（構成率）を見ると、「A」評価以上の優良海洋センターがほぼ横ばいの数値となっており、2024年度評価では、全体の83%が優良海洋センターとなっている。



③海洋センター利用者人数5カ年の推移

(人数)



海洋クラブの運営・活動状況

(1) 2024年度 海洋クラブの活動状況

全国290カ所のB&G海洋クラブは、B&G財団の基本理念である「海洋性レクリエーション活動を通じた青少年の健全育成」や「地域住民の健康づくり」に賛同する海洋センター（地方自治体）や民間の海洋性レクリエーション愛好者組織等によって運営されており、地域の自然や水辺において自然体験活動や海洋ごみ削減に向けた環境活動など、多様な方面からの地域貢献を行っている。

(2) 海洋クラブ評価

本評価は、海洋センター評価と同様に、全国の海洋クラブを統一した基準に基づき、活動の状況や様々な取り組みを客観的に把握した上で活動拡大を図るための指標とすると共に、財団からの支援を評価に応じて行うこと目的に実施している。

特A評価の海洋クラブは58カ所

2023年度の運営に基づく2024年度評価は、大項目として「活動状況」「組織運営」「活動の周知とPR」「特別加点」の4項目に大別して評価を行った。

海洋クラブ評価は、当該年度（4月～3月）の活動状況を基に評価し、翌年度はじめに各海洋クラブに公表する

●評価項目と配点

No.	評価項目	点数
1	活動状況	上限25点
2	組織運営	上限8点
3	活動の周知とPR	上限7点
4	特別加点	上限10点

その他、自然災害等やむを得ない事情への対応として特別調整点を加えることができる

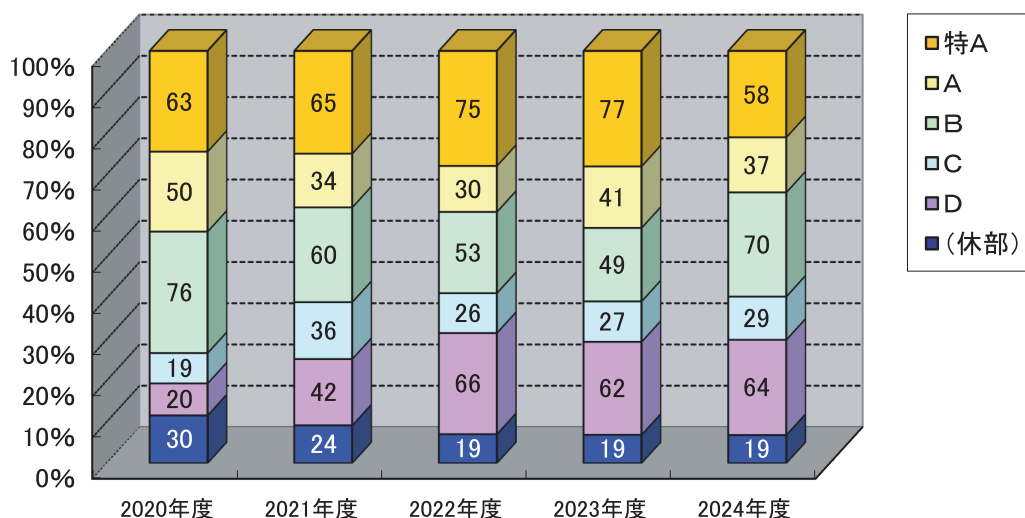
●合計点数に応じた評価設定

評価	点数範囲（50点満点）
特A	40点以上
A	33点～39点
B	20点～32点
C	12点～19点
D	11点以下
E	休部・廃部検討

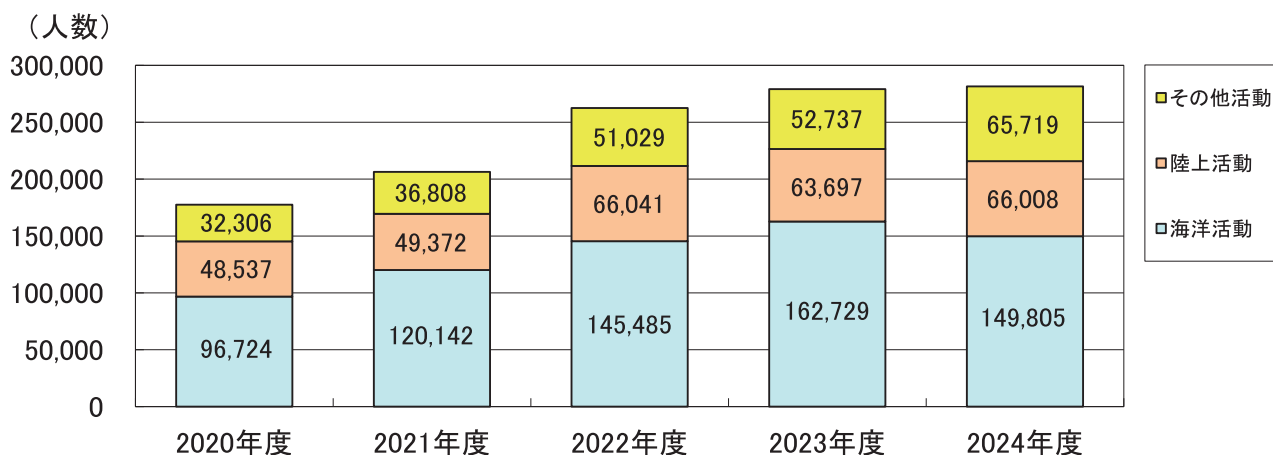
①2024年度海洋クラブ評価

年度	特A	A	B	C	D	E (休部)	合計
2019年度	49	45	82	24	26	41	267
2020年度	63	50	76	19	20	30	258
2021年度	65	34	60	36	42	24	261
2022年度	75	30	53	26	66	19	269
2023年度	77	41	49	27	62	19	277
2024年度	58	37	70	29	64	19	277

②海洋クラブ評価5カ年の推移



③海洋クラブ活動人数5カ年の推移



その他資料

B & G財団役員等一覧 2025年3月31日現在

1. 役員名簿

役職	氏名	現職
会 長	前田 康吉	北海道 滝川市長
理 事 長	菅原 悟志	
常務理事	朝日田智昭	
	岩井 正人	
理 事	佐野 慎輔	産経新聞社 客員論説委員
	中逸 博光	熊本県 長洲町長
	中江 有里	女優、脚本家、作家
	中村 真衣	シドニーオリンピック競泳 銀メダリスト
監 事	大藪 卓也	大藪公認会計士事務所代表
	子安美奈子	子安公認会計士事務所代表

2. 評議員名簿

氏名	現職
岸 ユキ	女優、画家
工藤 祐直	青森県 南部町長
	B & G全国指導者会 会長
小峯 力	中央大学 教授
佐藤 安彦	熊本県 南関町長
	B & G全国サミット 副会長
谷川 真理	株式会社MariCompany 代表取締役

3. B&G全国サミット

役職	氏名	現職
会 長	石山 志保	福井県 大野市長
副会長	佐藤 安彦	熊本県 南関町長
	丸山 俊郎	長野県 白馬村長

4. B&G全国教育長会議

役職	氏名	現職
会 長	米田 規子	兵庫県 養父市教育長
副会長	秦 公男	福島県 塙町教育長
	山脇 光章	高知県 四万十町教育長

5. 海洋センター施設整備委員

役職	氏名	現職
委 員 長	田久保雅己	株式会社舵社 常務取締役編集局長
副委員長	小林 元一	小林建築研究所 一級建築士事務所 代表
委 員	岩崎 恭子	バルセロナオリンピック 競泳 金メダリスト
	遠藤 聡	株式会社日本海事新聞社 特別編集委員
	大山 加奈	元女子バレーボール日本代表
	田村 祐司	国立大学法人 海洋大学大学院 准教授

2024年度 修繕一覧

(単位：円)

No.	道府県	センター名	申請施設	申請種別	修繕内容	最終工事金額	助成金額
1	北海道	上富良野町	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール缶体シート取替工事、照明LED化(水銀灯)、上屋鉄骨塗装工事	28,050,000	16,100,000
2	秋田県	由利本荘市 西目	体育館	通常修繕 (現状復帰)	外壁塗装工事、屋根板金・防水改修工事、アリーナ壁改修工事、照明LED化(水銀灯)、更衣室排風機交換工事	69,162,000	21,100,000
3	福島県	田村市滝根	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール改修工事、男女更衣室床改修工事、管理棟改修工事	26,642,000	15,000,000
4	茨城県	五霞町	プール	通常修繕 (現状復帰)	ろ過機取替工事	11,500,000	7,200,000
5	埼玉県	久喜市栗橋	プール	通常修繕 (現状復帰)	上屋鉄骨塗装工事	8,988,000	5,400,000
6	埼玉県	久喜市栗橋	体育館	通常修繕 (現状復帰)	電動格納式バスケットゴール交換、玄関周辺の地盤沈下対策工事	4,892,000	3,000,000
7	千葉県	いすみ市	艇庫	通常修繕 (現状復帰)	艇庫建具(艇庫扉)の改修工事	13,380,000	8,600,000
8	新潟県	新潟市味方	プール	通常修繕 (現状復帰)	上屋鉄骨塗装工事	18,400,000	11,000,000
9	富山県	南砺市福野	プール	通常修繕 (現状復帰)	上屋鉄骨修繕・塗装工事	19,000,000	12,200,000
10	福井県	勝山市	体育館	通常修繕 (現状復帰)	照明LED化(水銀灯)、屋根補修・塗装工事、玄関バリアフリー化工事、ミーティングルーム空調設置工事等	12,210,000	8,300,000
11	福井県	坂井市丸岡	プール	通常修繕 (現状復帰)	照明LED化(水銀灯)、遠赤外線放射暖房設備取替工事	41,428,355	16,700,000
12	福井県	大野市	体育館	通常修繕 (現状復帰)	体育館・トレーニングルーム照明LED化(水銀灯)、ミーティングルーム空調取替工事	17,306,000	10,800,000
13	福井県	越前町朝日	プール	通常修繕 (現状復帰)	プールサイド床改修工事、更衣室改修工事、屋根工事、ろ過機修繕工事、空調設備設置工事、トイレ洋式化、照明設備LED化(水銀灯)	37,100,000	24,800,000
14	山梨県	山梨市牧丘	体育館	通常修繕 (現状復帰)	シャワー用温水ボイラー改修工事、格技場床改修工事、入口風除室新設	8,420,000	4,100,000
15	長野県	上松町	プール	通常修繕 (現状復帰)	高分子ろ過装置への取替工事	27,650,000	9,600,000
16	長野県	飯島町	体育館	通常修繕 (現状復帰)	トイレ改修工事、更衣室改修工事、ベビーベッド新設、ロビー・廊下改修工事、アリーナ壁防護ネット設置、外壁一部改修工事等	47,500,000	20,500,000
17	長野県	飯綱町三水	体育館	通常修繕 (現状復帰)	トイレ・シャワー室改修工事、アリーナ照明LED化(水銀灯)等	28,000,000	19,600,000
18	岐阜県	中津川市 付知	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール照明LED化(水銀灯)	4,679,441	3,200,000
19	岐阜県	中津川市 付知	体育館	通常修繕 (現状復帰)	トレーニングルーム照明LED化(蛍光灯)	1,504,559	1,000,000
20	岐阜県	可児市	体育館	通常修繕 (現状復帰)	トイレ洋式化工事、オストメイト追加工事、換気設備の設置工事、体育館屋根塗装・防水工事	28,000,000	18,200,000
21	岐阜県	富加町	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール上屋・通路棟シート取替工事、トイレ洋式化工事	20,098,000	13,000,000

No.	道府県	センター名	申請施設	申請種別	修繕内容	最終工事金額	助成金額
22	三重県	亀山市関	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール段差解消工事、更衣室内レイアウト変更による設備更新・空調設備設置工事	10,500,000	4,000,000
23	三重県	熊野市紀和	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール缶体塗装工事	7,095,853	3,800,000
24	三重県	大紀町大内山	体育館	通常修繕 (現状復帰)	屋根改修工事、照明LED化(水銀灯)	22,400,000	15,200,000
25	大阪府	堺市美原	プール	通常修繕 (現状復帰)	プール棟等照明LED化(水銀灯)、プール缶体防水工事、プールサイド床シート改修工事、機械設備改修工事、更衣室・便所内装改修工事	35,428,322	23,000,000
26	岡山県	井原市美星	体育館	通常修繕 (多機能化)	体育館屋根改修工事、体育館内改修工事、事務所等内装工事、ベビーシート設置	33,470,000	20,600,000
27	岡山県	美作市作東	プール	通常修繕 (現状復帰)	プールろ過器・ヘアキャッチャー・自吸ポンプ・塩素滅菌装置等更新工事	7,230,000	4,600,000
28	山口県	田布施町	体育館	通常修繕 (現状復帰)	体育館屋根塗装工事、照明LED化(水銀灯)、トイレバリアフリー化工事、玄関扉改修工事等	68,330,000	30,000,000
29	香川県	三木町	プール	通常修繕 (現状復帰)	照明LED化(水銀灯)	6,049,268	2,400,000
30	香川県	三木町	体育館	通常修繕 (現状復帰)	アリーナ天井改修工事、照明LED化(水銀灯)	54,064,228	28,500,000
31	愛媛県	西条市丹原	プール	通常修繕 (現状復帰)	外壁・屋根全面塗装工事、石油給湯器及び各種配管取替工事、プレート式熱交換器取替工事、膨張タンク取替工事	21,638,075	13,600,000
32	福岡県	大任町	体育館	通常修繕 (現状復帰)	屋根改修工事、ミーティングルーム等床の張替工事、空調設備入替工事、外壁塗装工事	56,020,000	26,200,000
33	佐賀県	太良町	体育館	通常修繕 (現状復帰)	屋上防水工事	10,578,000	6,700,000

【特別施設整備】

(単位：円)

No.	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事金額	助成金額
1	千葉県	大多喜町	プール	プール防水改修工事、鉄骨柱・梁・プールサイド塗装工事	32,000,000	25,600,000
2	岐阜県	御嵩町	プール	上屋シート取替工事、上屋鉄骨部分塗装工事、濾過機吸込配管・送水配管改修工事、更衣室トイレ改修工事	33,402,000	25,600,000
3	滋賀県	高島市今津	プール	ろ過ポンプ・採暖室ヒーター・遠赤外線ヒーター改修工事、プール照明LED化(水銀灯)、プール缶体塗装工事	92,944,000	50,000,000
4	兵庫県	上郡町	プール	チラー更新工事	25,303,000	20,200,000
5	兵庫県	上郡町	体育館	バレーボール支柱基礎工事、バスケットボード更新工事	5,400,000	4,300,000
6	山口県	周防大島町	プール	プール温水化工事、プールろ過機及び缶体・配管の取替工事、採暖室の増室等	217,500,000	100,000,000
7	鹿児島県	天城町	プール	温水化工事に係る機械室設備の整備、上屋の断熱仕様への改修工事、プールサイド改修工事	120,776,363	95,300,000

【災害復旧修繕】

(単位：円)

No.	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事金額	助成金額
1	石川県	穴水町	体育館	外部給排水・内部給排水・衛生器具設備工事・トイレ内等建築工事・電気設備工事	12,900,000	4,500,000

【特別施設整備（2023年度延長分）】

(単位：円)

No.	道府県	センター名	申請施設	修繕内容	最終工事金額	助成金額
1	宮城県	大郷町	体育館	屋根改修、アリーナ等照明LED化（蛍光灯）	37,655,000	25,100,000
2	埼玉県	白岡市	プール	プール等照明LED化（水銀灯）、ろ過機・ボイラー更新 他	104,999,000	30,000,000
3	広島県	東広島市 安芸津	プール	ボイラー改修、空調設備改修、ろ過機改修	111,561,000	30,000,000
4	広島県	府中市	プール	プールの建替え・移設	954,000,000	50,000,000

2024年度 活動器材配備申請一覧（A・B区分）

(単位：円)

No.	道府県	名称	器材種類	助成金額
1	北海道	滝川市B&G海洋センター	ライフジャケット	200,000
2		砂川市B&G海洋センター	レクリエーションカヤック、ライフジャケット	500,000
3		秩父別町B&G海洋センター	SUP	130,000
4	青森県	中泊町中里B&G海洋センター	SUP	300,000
5		弘前市岩木B&G海洋センター	SUP、ライフジャケット	320,000
6	岩手県	洋野町種市B&G海洋センター	バナナボート、水上トランポリン	110,000
7	山形県	酒田市平田B&G海洋センター	ピアフロート 一式	260,000
8		B&G徳良湖海洋クラブ	SUP、ライフジャケットデッキカバー、ランチャー	320,000
9	石川県	穴水町B&G海洋センター	ライフジャケット、BIG SUP、SUPパドル、水上アクアボール	370,000
10	福井県	勝山市B&G海洋センター	カヌー、パドル、ライフジャケット	480,000
11	長野県	飯島町B&G海洋センター	浮き棧橋 一式	450,000
12		飯綱町三水B&G海洋センター	救助艇	230,000
13	岐阜県	八百津町B&G海洋センター	船外機、船外機スタンド、SUP 一式	500,000
14	滋賀県	甲賀市甲賀B&G海洋センター	SUP	310,000
15	鳥取県	伯耆町岸本B&G海洋センター	ライフジャケット、SUP	200,000
16	岡山県	瀬戸内市邑久B&G海洋センター	ライフジャケット、SUP	330,000
17		美作市作東B&G海洋センター	SUP	360,000
18	香川県	高松市国分寺B&G海洋センター	浮き棧橋 一式	370,000
19		B&G池田海洋クラブ	船外機、カヌーパドル	360,000
20	愛媛県	松山市中島B&G海洋センター	船外機、電動ポンプ、バナナボート、トーイングチューブ、ウォーターローラー	380,000
21		久万高原町久万B&G海洋センター	SUP、ライフジャケット	160,000
22		西条市丹原B&G海洋センター	SUP	110,000
23	高知県	B&G上松海洋クラブ	SUP、ライフジャケット	360,000
24		B&G YASU海洋クラブ	BIG SUP	230,000
25	福岡県	柳川市大和B&G海洋センター	ライフジャケット、SUP、可動式ラック	490,000
26	佐賀県	太良町B&G海洋センター	可動式ラック、救助艇用アルミ船台	500,000
27	長崎県	南島原市西有家B&G海洋センター	ライフジャケット、SUP	180,000
28	熊本県	湯前町B&G海洋センター	ライフジャケット	210,000
29	鹿児島県	天城町B&G海洋センター	スノーケル、海上遊具、パラソル	380,000

No.	道府県	名称	器材種類	助成金額
30		長島町B&G海洋センター	船外機	220,000
31		いちき串木野市串木野B&G海洋センター	浮き桟橋 一式、SUP	500,000
助成合計金額				9,820,000

2024年度 活動器材配備申請一覧（C区分）

(単位：円)

No.	道府県	名称	器材種類	助成金額
1	茨城県	B&G Next one.つくば海洋クラブ	テント、SUP、カヤック、スノーケルセット	772,970
2	神奈川県	B&G三浦海洋クラブ	ライフジャケット、テント、寝袋、レスキューチューブ、カヌー、サーフボード等	1,500,000
3		B&G横浜海洋クラブ	SUP	498,300
4	鹿児島県	B&Gあもりがわ海洋クラブ	サーフスキー、パドル、カヌー運搬トレーラー	1,000,000
助成合計金額				3,771,270

2024年度 活動器材配備申請一覧（D区分）

(単位：円)

No.	道府県	名称	器材種類	助成金額
1	富山県	B&G富山海洋クラブ	三角ブイ、SUP、SUPパドル、電動ポンプ、カヤック、ライフジャケット	980,232
2	愛媛県	B&G新居浜海洋クラブ	救助艇	3,000,000
助成合計金額				3,980,232

B&G フレンドシップ PROJECT



皆様の温かいご支援ありがとうございます

能登半島地震の影響により、石川県の穴水町、志賀町、七尾市などの地域では、今なお多くの方々が厳しい生活を余儀なくされています。

B&G財団では、全国に広がるネットワークを活かし、特に障がい児や子ども、高齢者など、支援の届きにくい方々に寄り添った活動を続けています。

被災地の一日も早い復興と、被災者の心の安らぎのために、今後も幅広い支援を続けてまいります。

■ 募金は下記の口座にて受け付けております

みずほ銀行 新橋（シンバシ） 支店 普通預金2658125
公益財団法人 B&G財団 （カナ） ザイ） ビーアンドジーザイダン



2024年度 B&G財団活動実績報告書

発行日：2025年8月

編集・製作：公益財団法人B & G財団

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル9F



<https://www.bgf.or.jp/>